

授業科目		心理学	担当者	木下 昌也																																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																
	2	30	講義 30	1年次 前期																																
	実務経験	無																																		
	その実務経験を生かして行う教育内容																																			
授業の目標および授業計画	<p><目標> 心や行動に関する基本的な心理学の知見についてまなぶ。これらの知見について自分自身のこととして理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>心理学とは</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>「見え」の世界</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>愛着①：親子関係の基盤</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>愛着②：愛着行動の発達と個人差</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>学習①：古典的条件づけ</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>学習②：オペラント条件づけ</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>学習③：罰について／社会的学習</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>学習④：行動療法</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>感情：情動の理論</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>動機づけ</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>欲求不満行動：転位行動と防衛機制</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>発達①：幼児期の特徴</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>発達②：児童期～青年期</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>発達③：青年期</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>復習／テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	心理学とは	2回	「見え」の世界	3回	愛着①：親子関係の基盤	4回	愛着②：愛着行動の発達と個人差	5回	学習①：古典的条件づけ	6回	学習②：オペラント条件づけ	7回	学習③：罰について／社会的学習	8回	学習④：行動療法	9回	感情：情動の理論	10回	動機づけ	11回	欲求不満行動：転位行動と防衛機制	12回	発達①：幼児期の特徴	13回	発達②：児童期～青年期	14回	発達③：青年期	15回	復習／テスト
	<回>	<内容>																																		
	1回	心理学とは																																		
	2回	「見え」の世界																																		
	3回	愛着①：親子関係の基盤																																		
	4回	愛着②：愛着行動の発達と個人差																																		
	5回	学習①：古典的条件づけ																																		
	6回	学習②：オペラント条件づけ																																		
	7回	学習③：罰について／社会的学習																																		
	8回	学習④：行動療法																																		
	9回	感情：情動の理論																																		
	10回	動機づけ																																		
	11回	欲求不満行動：転位行動と防衛機制																																		
	12回	発達①：幼児期の特徴																																		
	13回	発達②：児童期～青年期																																		
	14回	発達③：青年期																																		
15回	復習／テスト																																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 心理学 系統看護学講座 医学書院</p> <p>この他、参考資料を適宜配布する。</p>																																			
評価方法	筆記試験をおこなう。																																			
備考																																				

授業科目		倫理学	担当者	村若 修																																																																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																																																
	1	30	講義 30	2年次 前・後期																																																																
	実務経験	無																																																																		
	その実務経験を生かして行う教育内容																																																																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 人間の行為や道徳について理解し、人間の価値観の形成や尊重について学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>倫理学と「生命倫理」</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>生命倫理の成立（1）患者の権利</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>尊厳死（1）日本及び世界の状況</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>尊厳死（2）倫理的考察</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>安楽死（1）日本及び世界の状況</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>安楽死（2）倫理的考察</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>人工妊娠中絶</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>生殖補助医療技術の利用（1）日本及び世界の状況</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>生殖補助医療技術の利用（2）倫理的考察</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>出生前診断（1）日本及び世界の状況</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>出生前診断（2）倫理的考察</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>脳死と臓器移植</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>まとめ 終講テスト</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>				<回>	<内容>			1回	倫理学と「生命倫理」			2回	生命倫理の成立（1）患者の権利			3回	生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史			4回	生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則			5回	尊厳死（1）日本及び世界の状況			6回	尊厳死（2）倫理的考察			7回	安楽死（1）日本及び世界の状況			8回	安楽死（2）倫理的考察			9回	人工妊娠中絶			10回	生殖補助医療技術の利用（1）日本及び世界の状況			11回	生殖補助医療技術の利用（2）倫理的考察			12回	出生前診断（1）日本及び世界の状況			13回	出生前診断（2）倫理的考察			14回	脳死と臓器移植			15回	まとめ 終講テスト		
	<回>	<内容>																																																																		
	1回	倫理学と「生命倫理」																																																																		
	2回	生命倫理の成立（1）患者の権利																																																																		
	3回	生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史																																																																		
	4回	生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則																																																																		
	5回	尊厳死（1）日本及び世界の状況																																																																		
	6回	尊厳死（2）倫理的考察																																																																		
	7回	安楽死（1）日本及び世界の状況																																																																		
	8回	安楽死（2）倫理的考察																																																																		
	9回	人工妊娠中絶																																																																		
	10回	生殖補助医療技術の利用（1）日本及び世界の状況																																																																		
	11回	生殖補助医療技術の利用（2）倫理的考察																																																																		
	12回	出生前診断（1）日本及び世界の状況																																																																		
	13回	出生前診断（2）倫理的考察																																																																		
14回	脳死と臓器移植																																																																			
15回	まとめ 終講テスト																																																																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 看護のための生命倫理 改訂三版 ナカニシヤ出版 この他、参考資料を適宜配布する。</p>																																																																			
評価方法	筆記試験・レポート内容を中心に評価する。																																																																			
備考																																																																				

授業科目		生活環境論	担当者	西留 清																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 後期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 生活科学に対する基本的考え方についての概略を学び、生活と健康、室内環境、都市環境を中心に学習すると同時に安全で衛生的な環境を考慮した看護ができるようになる。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <thead> <tr> <th><回></th> <th><内容></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>生活環境論概要</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>生活と健康 温暖化、オゾン層破壊、酸性雨</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>都市環境 飲み水と健康 大気と健康 室内空気質と健康 下水道システム 微生物を利用した下水処理</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>〃 高度水処理 し尿の処理 都市における水利用</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>〃 水の循環 河川湖沼 土壌地下水 有機廃棄物</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>〃 水環境 大気 ごみ 室内環境 環境シミュレーション 環境アセスメント ライフサイクル</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>〃 自然エネルギー 地球温暖化</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>〃 まとめ</td> </tr> </tbody> </table>				<回>	<内容>	1回	生活環境論概要	2回	生活と健康 温暖化、オゾン層破壊、酸性雨	3回	都市環境 飲み水と健康 大気と健康 室内空気質と健康 下水道システム 微生物を利用した下水処理	4回	〃 高度水処理 し尿の処理 都市における水利用	5回	〃 水の循環 河川湖沼 土壌地下水 有機廃棄物	6回	〃 水環境 大気 ごみ 室内環境 環境シミュレーション 環境アセスメント ライフサイクル	7回	〃 自然エネルギー 地球温暖化	8回	〃 まとめ
	<回>	<内容>																				
	1回	生活環境論概要																				
	2回	生活と健康 温暖化、オゾン層破壊、酸性雨																				
	3回	都市環境 飲み水と健康 大気と健康 室内空気質と健康 下水道システム 微生物を利用した下水処理																				
	4回	〃 高度水処理 し尿の処理 都市における水利用																				
	5回	〃 水の循環 河川湖沼 土壌地下水 有機廃棄物																				
	6回	〃 水環境 大気 ごみ 室内環境 環境シミュレーション 環境アセスメント ライフサイクル																				
	7回	〃 自然エネルギー 地球温暖化																				
8回	〃 まとめ																					
使用教材および参考文献	テキスト： 新編 生活科学 東京教学社																					
評価方法	出席状況・課題レポートの成績を中心に評価する。																					
備考																						

授業科目		論理学	担当者	永里 紘二																																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																
	1	30	講義 30	1年次 後期																																
	実務経験	無																																		
	その実務経験を生かして行う教育内容																																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 現代論理学の基礎をなす命題論理の意味論と証明論を学び、論理的な推論分析手法を学ぶことにより誤った思考、推論を廃して正しい思考を身に付けることを目指す。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>命題、逆裏、対偶 主観と客観について</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>命題、逆裏、対偶 割合について</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>日本的な発言を考える 数的処理能力</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>論理的に正しい発言 接続語の持つ意味</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>アークギュメントとステイトメントの違いについて</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>論理的な話し方の基礎をつくる 隠れた前提</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>日常的な会話の言外の意味 数的処理能力</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>直感的表現から分析的表現 オノマトペの活用</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>大雑把な表現を改める</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>立証責任の転嫁 二者択一</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>論理力の養成</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>数的処理</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>詭弁とレトリックについて</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>論理的に話すための助言</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	命題、逆裏、対偶 主観と客観について	2回	命題、逆裏、対偶 割合について	3回	日本的な発言を考える 数的処理能力	4回	論理的に正しい発言 接続語の持つ意味	5回	アークギュメントとステイトメントの違いについて	6回	論理的な話し方の基礎をつくる 隠れた前提	7回	日常的な会話の言外の意味 数的処理能力	8回	直感的表現から分析的表現 オノマトペの活用	9回	大雑把な表現を改める	10回	立証責任の転嫁 二者択一	11回	論理力の養成	12回	数的処理	13回	詭弁とレトリックについて	14回	論理的に話すための助言	15回	終講テスト
<回>	<内容>																																			
1回	命題、逆裏、対偶 主観と客観について																																			
2回	命題、逆裏、対偶 割合について																																			
3回	日本的な発言を考える 数的処理能力																																			
4回	論理的に正しい発言 接続語の持つ意味																																			
5回	アークギュメントとステイトメントの違いについて																																			
6回	論理的な話し方の基礎をつくる 隠れた前提																																			
7回	日常的な会話の言外の意味 数的処理能力																																			
8回	直感的表現から分析的表現 オノマトペの活用																																			
9回	大雑把な表現を改める																																			
10回	立証責任の転嫁 二者択一																																			
11回	論理力の養成																																			
12回	数的処理																																			
13回	詭弁とレトリックについて																																			
14回	論理的に話すための助言																																			
15回	終講テスト																																			
使用教材および参考文献	テキスト：参考資料を適宜配布する。																																			
評価方法	講義への取り組み及び終講試験により評価する。																																			
備考																																				

授業科目		情報科学	担当者	宮田 千加良
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 10・演習 20	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>現代の情報化社会において必要不可欠な情報モラルやセキュリティを理解し、問題に対する正しい行動が行えるようになる。また、ワープロソフトや表計算ソフトを用いてレポートや報告書を含む様々な書類を効率的に作成できるようになる。更に、プレゼンテーションソフトを使った資料の作成、およびそれを用いた発表の仕方についての知識を有する。</p> <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とリテラシー <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報とは (2) コンピュータに関する基礎知識 (3) コンピュータリテラシー 2. Word を使った文書作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な文書作成 (2) ページ設定、図の作成 (3) 表の作成、図・表文書作成 (4) 表現力をアップする機能 3. PowerPoint によるプレゼン資料の作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) テーマを決めて情報収集し、プレゼン資料を作成 (2) アニメーション機能の追加 4. Excel を使ったデータ処理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 表の書式設定、ワークシート関数 (2) グラフ作成と編集 (3) データベース処理 (4) Word と Excel との連携（差し込み印刷） 5. 試験 <p>※1.情報とリテラシー は2.～4.(Word、Excel、PowerPoint)と並行して授業を行う</p>			
	使用教材および参考文献	<p>テキスト： 看護情報学 系統看護学講座 別巻 医学書院</p> <p>使用教材： USB メモリ</p> <p>(学校側で一括購入したものに課題用のデータを入れ、授業開始時に配布)</p> <p>その他、適宜プリントを配布する</p>		
評価方法	講義への取り組み及び終講試験により評価する。			
備考				

授業科目		教育学	担当者	岩橋 法雄	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義 30	1年次 後期	
	実務経験	無			
その実務経験を生かして行う教育内容					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 看護師は優れた教育者であることを理解する。それは相手が人に対する行為そのものを中核におく生業とする専門職者だからである。学校教師もその側面を有するが、看護師は学校教師ではない。そこに最初から学校教育から解放された教育の本質を体現できる存在である。このことの理解を基本にして教育への理解を深めることを目標とする。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>1回 看護師は高度で深い教養の担い手である ナイチンゲールの果たした役割、看護教育制度の歴史から学ぶ</p> <p>2回 考えることを学び実践する：常識を疑う習慣を身につける</p> <p>3回 発達（1）：人の発達を考える 赤ちゃん学を見直す</p> <p>4回 発達（2）：ことばの発達を考える／人にとって「言葉」とは？</p> <p>5回 発達障害を考える（1）</p> <p>6回 発達障害を考える（2）</p> <p>7回 教育とは：教育の概念</p> <p>8回 西洋教育思想史から学ぶ（1）：教育の思想は時代社会の反映 ルソー（エミール）とペスタロッチ（ゲルトルート）を中心に</p> <p>9回 西洋教育思想史から学ぶ（2）：コメニウス、オウエン、フレーベル、 モンテッソリーなど上記（1）以外の教育思想</p> <p>10回 戦後世界の教育と子どもの権利</p> <p>11回 ユネスコ・学習権宣言について</p> <p>12回 今ひとたび医療・看護と教育 「一条校」問題とその克服</p> <p>13回 生涯学習の意味：教授から学びへ</p> <p>14回 総復習と質問・討議</p> <p>15回 終講テスト</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト： 教育学 系統看護学講座 医学書院 その他、適宜プリントを配布する</p>			
	評価方法	<p>講義への取り組み及び終講試験により評価する。</p>			
	備考				

授業科目		文学	担当者		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義 10・演習 20	1年次 前期	
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>1) 日本の古典文学に親しみ、その意義を知る。</p> <p>2) 文章の音読・黙読を通して、作品に親しむことができる。</p> <p>3) 現代語約や解説を聞いて内容や作品の世界を理解できる。</p> <p>4) 理解した内容について、自分なりの意見や感想が述べられる。</p> <p>5) 基本的な日本語リテラシー（読み・書き能力）を向上させる。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>1回 古事記概説</p> <p>2回 国生み神話</p> <p>3回 神生み神話と黄泉の国</p> <p>4回 黄泉の国と呪的逃走</p> <p>5回 三貴子の出生とうけひ</p> <p>6回 八俣の大蛇神話</p> <p>7回 稲羽の素戔</p> <p>8回 根の堅州国</p> <p>9回 八千矛の神語</p> <p>10回 天若日子神話</p> <p>11回 国譲り神話</p> <p>12回 天孫降臨神話</p> <p>13回 コノハナサクヤヒメとの婚姻</p> <p>14回 海幸・山幸神話</p> <p>15回 終講テスト</p>				
	使用教材および参考文献	<p>神話についてのテキストおよび参考資料は、授業時にプリントを配布する。</p> <p>日本語（漢字）の演習については以下のテキストを使用する。</p> <p>尚文出版：改訂版 漢字とことば 国語学習課題</p>			
	評価方法	<p>終講試験（70%）および小テスト（30%）で評価する。</p>			
	備考				

授業科目		コミュニケーション論	担当者	近藤 諭																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 前期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 私たちが生活を営む社会は、コミュニケーションで成り立っています。本科目では、社会生活を送る上で必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解し、方法を学ぶことを目標とします。 内容としては、社会学の視野で研究されてきたコミュニケーションに対する考え方を下敷きとして、基本的な知識と視野を獲得します。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-left: 20px;"><回></td> <td style="padding-left: 40px;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 1 そもそもコミュニケーションが成り立つとはどういうことかを考えます。</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 2 コミュニケーションを的確に表すモデルには何があるのかについて考えます</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>コミュニケーションを成立させる条件について 1 コミュニケーションを支える物理的側面について考えます。</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>コミュニケーションを成立させる条件について 2 コミュニケーションを支える認知的側面について考えます。</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>三者関係のコミュニケーション 2者間と3者間でのコミュニケーションの違いを考えます。</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>ダブルバインド状況のコミュニケーション 矛盾に満ちたコミュニケーションについて考えます。</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>コミュニケーションが求められる背景 コミュニケーション力ってなぜ必要とされるのかを考えます。</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 1 そもそもコミュニケーションが成り立つとはどういうことかを考えます。	2回	コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 2 コミュニケーションを的確に表すモデルには何があるのかについて考えます	3回	コミュニケーションを成立させる条件について 1 コミュニケーションを支える物理的側面について考えます。	4回	コミュニケーションを成立させる条件について 2 コミュニケーションを支える認知的側面について考えます。	5回	三者関係のコミュニケーション 2者間と3者間でのコミュニケーションの違いを考えます。	6回	ダブルバインド状況のコミュニケーション 矛盾に満ちたコミュニケーションについて考えます。	7回	コミュニケーションが求められる背景 コミュニケーション力ってなぜ必要とされるのかを考えます。	8回	終講テスト
<回>	<内容>																					
1回	コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 1 そもそもコミュニケーションが成り立つとはどういうことかを考えます。																					
2回	コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 2 コミュニケーションを的確に表すモデルには何があるのかについて考えます																					
3回	コミュニケーションを成立させる条件について 1 コミュニケーションを支える物理的側面について考えます。																					
4回	コミュニケーションを成立させる条件について 2 コミュニケーションを支える認知的側面について考えます。																					
5回	三者関係のコミュニケーション 2者間と3者間でのコミュニケーションの違いを考えます。																					
6回	ダブルバインド状況のコミュニケーション 矛盾に満ちたコミュニケーションについて考えます。																					
7回	コミュニケーションが求められる背景 コミュニケーション力ってなぜ必要とされるのかを考えます。																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト：使用しない。配布するプリントを使用します。 参考文献：E.ゴフマン『行為と演技』1974年、誠信書房（ISBN4414518016）ほか</p>																					
評価方法	授業内の小課題および終講試験で評価を行います。																					
備考																						

授業科目		物理学	担当者	野澤 広大																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	15	講義 15	1年次 前期																
	実務経験	無																		
	その実務経験を生かして行う教育内容																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 看護活動におけるさまざまな行動、現象の根拠を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>自然界、人体のメカニズムと物理学</td> </tr> <tr> <td>2・3回</td> <td>看護ボディメカニクスの物理</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>身近な圧力</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>呼吸器と吸引の物理</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>循環器の物理</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>点滴静脈内注射の物理</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	自然界、人体のメカニズムと物理学	2・3回	看護ボディメカニクスの物理	4回	身近な圧力	5回	呼吸器と吸引の物理	6回	循環器の物理	7回	点滴静脈内注射の物理	8回	終講テスト
<回>	<内容>																			
1回	自然界、人体のメカニズムと物理学																			
2・3回	看護ボディメカニクスの物理																			
4回	身近な圧力																			
5回	呼吸器と吸引の物理																			
6回	循環器の物理																			
7回	点滴静脈内注射の物理																			
8回	終講テスト																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 物理学 系統看護学講座 医学書院 配布するプリントを使用します。</p>																			
評価方法	<p>終講試験で評価を行います。</p>																			
備考																				

授業科目		社会学	担当者	近藤 諭																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 前期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>本科目は、社会と人間の関係性を理解し、社会を理解した人間となる必要があることを学ぶことを目標とします。社会とは、複数の人びとのつながりを可能にするとともに、そのつながりによって成り立ってもいる存在です。単なる「ルール」の集合とも言えそうで、それだけでなく、社会の存在によって私たちが支えられているという、社会と個人のあり方について考えることがこの科目で学ぶ内容です。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-left: 20px;"><回></td> <td style="padding-left: 20px;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>社会とは何か 社会とは耳にする機会が多いけどそもそも何なのかを考えます。</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>社会学の2つの方法 社会の捉え方は様々ですが2つの代表例を取り上げます。</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>個人、役割、組織 社会と人間の関係を捉えるための社会学固有の視点を扱います。</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>現代家族の諸相 1 現代社会における家族とはどのような集団かを今一度考えてみましょう</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>現代家族の諸相 2 世帯に注目すると社会が捉えやすくなることと、医療との関係も見えてきます。</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>社会の中の逸脱 社会にとって犯罪・逸脱とされる現象について扱います。</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>現代社会の行く末 現在の日本社会の現状を今一度考えてみましょう。</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	社会とは何か 社会とは耳にする機会が多いけどそもそも何なのかを考えます。	2回	社会学の2つの方法 社会の捉え方は様々ですが2つの代表例を取り上げます。	3回	個人、役割、組織 社会と人間の関係を捉えるための社会学固有の視点を扱います。	4回	現代家族の諸相 1 現代社会における家族とはどのような集団かを今一度考えてみましょう	5回	現代家族の諸相 2 世帯に注目すると社会が捉えやすくなることと、医療との関係も見えてきます。	6回	社会の中の逸脱 社会にとって犯罪・逸脱とされる現象について扱います。	7回	現代社会の行く末 現在の日本社会の現状を今一度考えてみましょう。	8回	終講テスト
	<回>	<内容>																				
1回	社会とは何か 社会とは耳にする機会が多いけどそもそも何なのかを考えます。																					
2回	社会学の2つの方法 社会の捉え方は様々ですが2つの代表例を取り上げます。																					
3回	個人、役割、組織 社会と人間の関係を捉えるための社会学固有の視点を扱います。																					
4回	現代家族の諸相 1 現代社会における家族とはどのような集団かを今一度考えてみましょう																					
5回	現代家族の諸相 2 世帯に注目すると社会が捉えやすくなることと、医療との関係も見えてきます。																					
6回	社会の中の逸脱 社会にとって犯罪・逸脱とされる現象について扱います。																					
7回	現代社会の行く末 現在の日本社会の現状を今一度考えてみましょう。																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	テキスト：使用しない。配布するプリントを使用します。																					
評価方法	授業内の小課題および終講試験で評価を行います。																					
備考																						

授業科目		ボランティア論	担当者	財部 マチ子																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 前期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) ボランティアの特性である「主体性」「公共性」「無償性」の意味を理解し、ボランティア活動の役割、課題を理解できる。</p> <p>(2) ボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴む。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>ボランティアとは何か。 人はなぜボランティア活動をするのか</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>ボランティア活動の現状と課題 ボランティアと現代社会</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>日本におけるボランティアの普及・推進の歩み</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>人と人とのかかわり 児童・障害者・高齢者</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>地域社会のボランティア活動</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>災害とボランティア活動 国際ボランティア活動</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>ボランティア活動の可能性と展望 地域社会に出かけよう</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	ボランティアとは何か。 人はなぜボランティア活動をするのか	2回	ボランティア活動の現状と課題 ボランティアと現代社会	3回	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	4回	人と人とのかかわり 児童・障害者・高齢者	5回	地域社会のボランティア活動	6回	災害とボランティア活動 国際ボランティア活動	7回	ボランティア活動の可能性と展望 地域社会に出かけよう	8回	まとめ
<回>	<内容>																					
1回	ボランティアとは何か。 人はなぜボランティア活動をするのか																					
2回	ボランティア活動の現状と課題 ボランティアと現代社会																					
3回	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み																					
4回	人と人とのかかわり 児童・障害者・高齢者																					
5回	地域社会のボランティア活動																					
6回	災害とボランティア活動 国際ボランティア活動																					
7回	ボランティア活動の可能性と展望 地域社会に出かけよう																					
8回	まとめ																					
使用教材および参考文献	テキスト：ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ (株)みらい																					
評価方法																						
備考																						

授業科目		ボランティア実践	担当者	富吉 良子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義 15	3年次 前・後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> ボランティアの実践活動をすることで「援助し、援助される関係」を体験し、「ともに生きる」ボランティア活動を理解する。</p> <p><授業計画></p> <p>1 回目 ボランティア活動の基礎知識 ボランティアする側とされる側について/安全対策 マナーと活動のための留意点 計画書作成について どのような活動を（どこで、何をするのか） どのような形態・時間ですか</p> <p>2 回目 ボランティア活動（一斉） 美化活動</p> <p>3 回目 ボランティア活動（個人） （夏季休暇中または休日、授業の空き時間など） ～ 実施時間：4 時間程度 . 報告書作成：2 時間 （2 日に分けて活動してよい：一人でも、仲間と一緒に構わない）</p> <p>7 回目 ボランティア活動体験の発表準備</p> <p>8 回目 「ボランティア実践」のまとめを発表</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ (株) みらい			
評価方法	出席状況 レポート内容（活動計画書・活動報告書） プレゼンテーション（まとめレポート）			
備考				

授業科目		医療英語	担当者	佐藤 哲三
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	3年次 前・後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>I. 看護および看護に関連する英文文献を解読する能力を養う。</p> <p>II. 医療情報や医療文献を解読、表現する能力を養う。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>1回 English Primer: Units 1-2, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>2回 English Primer: Units 3-4, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>3回 English Primer: Units 5-6, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>4回 English Primer: Units 7-8, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>5回 English Primer: Units 9-10, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>6回 English Primer: Units 11-12, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>7回 English Primer: Units 13-14, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>8回 English Primer: Units 15-16, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>9回 English Primer: Units 17-18, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>10回 English Primer: Units 19-20, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>11回 English Primer: Units 21, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>12回 English Primer: Units 22, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>13回 English Primer: Units 23, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>14回 English Primer: Units 24, Medical English,English Conversation & Song</p> <p>15回 総まとめ (テストも含む)</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：Your CONQUEST of ENGLISH 南雲堂</p> <p>プリント：医療英語, 英語の歌 (英国国歌も含む)</p>			
評価方法	試験, レポート, 出席を含む平常点による総合評価			
備考				

授業科目		健康と運動	担当者	眞方 麻衣子																																																																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																																																
	1	30	演習 30	2年次 前・後期																																																																
	実務経験	無																																																																		
	その実務経験を生かして行う教育内容 心身ともに健康的な身体作りを行う。 日常的に出来る運動を習得すると共に運動の必要性を理解、身体を動かすことの楽しさを広く伝える。																																																																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> ストレッチ・レクリエーション等の技術を学び、職場で活用できる技能を身につける。社会生活に必要な「協調性・自主性」を集団運動の中で養い、総合的な自己能力の向上を図る。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <thead> <tr> <th><回></th> <th colspan="3"><内容></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>ストレッチ体験</td> <td colspan="2">2人組ストレッチ指導</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ストレッチ指導練習</td> <td>筋膜リリース法</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ストレッチ指導練習</td> <td>バランストレーニング</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ストレッチ指導練習</td> <td>コアトレーニング</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>チェアストレッチ体操</td> <td colspan="2">ストレッチ指導練習 ラダーを用いた歩行トレーニング</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ストレッチ指導練習</td> <td>ストレッチポール</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ストレッチ指導練習</td> <td>ニュースポーツ</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ストレッチ指導練習</td> <td>体力測定</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>ストレッチ資料説明</td> <td colspan="2">ストレッチ作成</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td colspan="2">インボディ測定</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td colspan="3">ストレッチ発表</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>ストレッチ発表</td> <td colspan="2">サーキットトレーニング</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>ストレッチ発表</td> <td colspan="2">縄跳び 長縄跳び</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td colspan="2">ストレッチポール</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>ストレッチ体操</td> <td>ニュースポーツ</td> <td>筋膜リリース</td> </tr> </tbody> </table>				<回>	<内容>			1回	ストレッチ体験	2人組ストレッチ指導		2回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	筋膜リリース法	3回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	バランストレーニング	4回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	コアトレーニング	5回	チェアストレッチ体操	ストレッチ指導練習 ラダーを用いた歩行トレーニング		6回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ストレッチポール	7回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ニュースポーツ	8回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	体力測定	9回	ストレッチ資料説明	ストレッチ作成		10回	ストレッチ体操	インボディ測定		11回	ストレッチ発表			12回	ストレッチ発表	サーキットトレーニング		13回	ストレッチ発表	縄跳び 長縄跳び		14回	ストレッチ体操	ストレッチポール		15回	ストレッチ体操	ニュースポーツ	筋膜リリース
	<回>	<内容>																																																																		
	1回	ストレッチ体験	2人組ストレッチ指導																																																																	
	2回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	筋膜リリース法																																																																
	3回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	バランストレーニング																																																																
	4回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	コアトレーニング																																																																
	5回	チェアストレッチ体操	ストレッチ指導練習 ラダーを用いた歩行トレーニング																																																																	
	6回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ストレッチポール																																																																
	7回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ニュースポーツ																																																																
	8回	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	体力測定																																																																
	9回	ストレッチ資料説明	ストレッチ作成																																																																	
	10回	ストレッチ体操	インボディ測定																																																																	
	11回	ストレッチ発表																																																																		
	12回	ストレッチ発表	サーキットトレーニング																																																																	
	13回	ストレッチ発表	縄跳び 長縄跳び																																																																	
	14回	ストレッチ体操	ストレッチポール																																																																	
15回	ストレッチ体操	ニュースポーツ	筋膜リリース																																																																	
使用教材および参考文献	<p>運動に必要な道具については随時準備 教材については、市町村運動指導にて使用している資料を使用</p>																																																																			
評価方法	出席、授業態度、レポート、自主性・協調性による総合評価																																																																			
備考																																																																				

授業科目		細胞・骨・筋肉の 構造と機能	担当者	田島 喜久夫
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	16	講義 15	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容 身体の構造、細胞の構造と機能 各器官系統の持つ働き 骨格・筋の機能			
授業の目標および授業計画	<p>< 目標 > 身体の構造を理解する。人間にとって各器官系統の持つ働きの意味を理解する。 特に骨格・筋系についての構造と機能を理解する。</p> <p>< 授業計画 ></p> <p> < 回 > < 内容 ></p> <p> I 「細胞・骨・筋肉」</p> <p> 1回 解剖生理の基礎</p> <p> 2回 細胞の構造と機能・人体を構成する組織</p> <p> 3回 細胞膜の機能</p> <p> 4回 分化した細胞がつくる組織</p> <p> 5回 身体の支持と運動 体幹・上肢の骨と筋</p> <p> 6回 身体の支持と運動 下肢の運動、筋の収縮</p> <p> 7回 筋の収縮 心筋</p> <p> 8回 筋の収縮 平滑筋、エネルギー代謝</p> <p> 9回 終講テスト</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 系統看護学講座 医学書院 ビデオ，模型などを参考に講義			
評価方法	基本的には出席状況と終講試験			
備考				

授業科目		呼吸・循環・血液・ 体温調節の構造と機能	担当者	田島 喜久夫 中河 志朗
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 呼吸器・循環器系の構造を理解し、生命現象の基本としての認識の上に、呼吸・循環の働きについて両者を関連づけて理解する。身体機能の防御と適応について理解する。</p> <p><授業計画></p> <p> <回> <内容></p> <p> I 「呼吸・循環」</p> <p> 1回 呼吸器の解剖と生理</p> <p> 2回 呼吸と呼吸運動</p> <p> 3回 ガス交換 呼吸運動の調節</p> <p> 4回 循環器の解剖と生理</p> <p> 5回 心臓機能：心電図、不整脈</p> <p> 6回 心臓機能：新周期、血管</p> <p> 7回 血圧循環の調節 血圧</p> <p> 8回 血圧調節,微小循環</p> <p> 9回 終講テスト</p> <p> II 「血液・体温」</p> <p> 1回 血液、血漿、造血器官</p> <p> 2回 赤血球、白血球(顆粒球)</p> <p> 3回 無顆粒白血球、血小板、血液凝固と線維素溶解</p> <p> 4回 身体の防御に關与する主な器官</p> <p> 5回 自然免疫、獲得免疫</p> <p> 6回 腸粘膜での防御の仕組み、皮膚の構造・働きと防御系の仕組み</p> <p> 7回 体温とその調節</p> <p> 8回 終講テスト</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 系統看護学講座 医学書院</p> <p>ビデオ, 模型などを参考に講義</p>			
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験</p> <p>終講試験評価 I : 60% , II : 40%とする。</p>			
備考				

授業科目		消化器・内分泌の構造と機能	担当者	藤島 慶 田島 喜久夫	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義 30	1年次 前期	
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>I 消化器系の構造を理解し、消化・吸収のしくみについて理解する。</p> <p>II 生体内外の環境の変化に対応する自律神経とホルモンの作用について理解する。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>I. 「消化器」</p> <p>1回 消化管総論</p> <p>2回 大腸の構造と機能</p> <p>3回 小腸の構造と機能</p> <p>4回 肝臓・胆のう・膵臓の構造と機能</p> <p>5回 胃の構造と機能</p> <p>6回 食道・咽頭・口腔の構造と機能</p> <p>7回 終講テスト</p> <p>II. 「内分泌」</p> <p>1回 内臓機能の調節 自律神経系：交感神経</p> <p>2回 内臓機能の調節 自律神経系：副交感神経</p> <p>3回 自律神経伝達物質とホルモンの受容体</p> <p>4回 内分泌系：ホルモンの化学構造と作用機序</p> <p>5回 内分泌系：視床下部・下垂体ホルモン</p> <p>6回 内分泌系：甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン</p> <p>7回 内分泌系：膵臓ホルモン、副腎ホルモン</p> <p>8回 内分泌系：性腺ホルモン、その他の内分泌腺</p> <p>9回 内分泌系：ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際</p> <p>10回 終講テスト</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 系統看護学講座 医学書院</p> <p>ビデオ， 模型などを参考に講義</p>			
	評価方法	<p>I (40%) : 毎回の講義において行う小テストと終講試験の成績による</p> <p>II (60%) : 終講試験の成績による筆記試験・レポートの成績を中心に評価する。</p>			
	備考				

授業科目		腎・泌尿器・生殖器の構造と機能	担当者	藤島 慶																												
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																												
	1	30	講義 30	1年次 前・後期																												
	実務経験	無																														
	その実務経験を生かして行う教育内容																															
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 腎・泌尿器の構造と排泄のしくみについて学び体液の調節作用を理解する。</p> <p>(2) 『男女の違い』を明確に区別することは実を言えば困難な場合があり、それが個性であることを科学的に学び、生殖器の構造と機能について理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>腎臓の解剖と排尿のしくみ</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>尿の生成</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>腎臓におけるろ過</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>腎臓における再吸収</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>尿量調節のしくみ</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>酸・塩基平衡調節</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>電解質の調節、腎臓と他の臓器との関連</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>ジェンダーと性スペクトラム、生殖器の分化</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>Y染色体の役割と性ホルモンの働き①</td> </tr> <tr> <td>10~11回</td> <td>男性生殖器の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>性ホルモンの働き②</td> </tr> <tr> <td>13~15回</td> <td>女性生殖器の構造と機能、生物学的性の多様性</td> </tr> <tr> <td>16回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	腎臓の解剖と排尿のしくみ	2回	尿の生成	3回	腎臓におけるろ過	4回	腎臓における再吸収	5回	尿量調節のしくみ	6回	酸・塩基平衡調節	7回	電解質の調節、腎臓と他の臓器との関連	8回	ジェンダーと性スペクトラム、生殖器の分化	9回	Y染色体の役割と性ホルモンの働き①	10~11回	男性生殖器の構造と機能	12回	性ホルモンの働き②	13~15回	女性生殖器の構造と機能、生物学的性の多様性	16回	終講テスト
	<回>	<内容>																														
1回	腎臓の解剖と排尿のしくみ																															
2回	尿の生成																															
3回	腎臓におけるろ過																															
4回	腎臓における再吸収																															
5回	尿量調節のしくみ																															
6回	酸・塩基平衡調節																															
7回	電解質の調節、腎臓と他の臓器との関連																															
8回	ジェンダーと性スペクトラム、生殖器の分化																															
9回	Y染色体の役割と性ホルモンの働き①																															
10~11回	男性生殖器の構造と機能																															
12回	性ホルモンの働き②																															
13~15回	女性生殖器の構造と機能、生物学的性の多様性																															
16回	終講テスト																															
使用教材および参考文献	<p>テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 系統看護学講座 医学書院</p> <p>ビデオ，模型などを参考に講義</p>																															
評価方法	小テストや終講試験の成績により評価します。																															
備考																																

授業科目		脳神経・感覚器の 構造と機能	担当者	田島 喜久夫	
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義 30	1年次 後期	
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の 目標および 授業計画	<p><目 標></p> <p>神経系の構造・機能を理解し、外界の刺激を受容する仕組みや各刺激に応じた反応の仕組みを理解する。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>1回 情報の受容と処理 神経系の構造と機能</p> <p>2回 興奮の伝達 神経系の構造</p> <p>3回 脊髄・脳幹の構造</p> <p>4回 小脳・感応・大脳</p> <p>5回 新皮質の機能</p> <p>6回 脳神経と脊髄神経 脊髄神経の構造と機能</p> <p>7回 脳神経 脳波と睡眠</p> <p>8回 高次機能 記憶・本能行動・情動行動</p> <p>9回 中枢神経系の障害 運動ニューロン、下行性伝導路</p> <p>10回 上行性伝導路 感覚器系</p> <p>11回 感覚器 視覚器</p> <p>12回 感覚器 視覚</p> <p>13回 感覚器 聴覚</p> <p>14回 感覚器 平衡覚 味覚 嗅覚</p> <p>15回 感覚器 疼痛</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 系統看護学講座 医学書院</p> <p>ビデオ，模型などを参考に講義</p>			
	評価方法	<p>講義への取り組み及び終講試験により評価する。</p>			
	備考				

授業科目		栄養学	担当者	隈元 洋子																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 前期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容 栄養の意義 臨床栄養																					
授業の目標および授業計画	<p><目標> 健康にとっての栄養の意義と臨床栄養について理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>栄養学の基礎 栄養素の種類とはたらき他</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>食事と食品 栄養ケアマネジメント 栄養状態の評価・判定①</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>栄養状態の評価・判定② ライフステージと栄養</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>生活習慣病予防対策と特定健診・特定保健指導 糖尿病の栄養食事療法他</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>臨床栄養①</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>臨床栄養②</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>臨床栄養③ 他</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>まとめ 終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	栄養学の基礎 栄養素の種類とはたらき他	2回	食事と食品 栄養ケアマネジメント 栄養状態の評価・判定①	3回	栄養状態の評価・判定② ライフステージと栄養	4回	生活習慣病予防対策と特定健診・特定保健指導 糖尿病の栄養食事療法他	5回	臨床栄養①	6回	臨床栄養②	7回	臨床栄養③ 他	8回	まとめ 終講テスト
<回>	<内容>																					
1回	栄養学の基礎 栄養素の種類とはたらき他																					
2回	食事と食品 栄養ケアマネジメント 栄養状態の評価・判定①																					
3回	栄養状態の評価・判定② ライフステージと栄養																					
4回	生活習慣病予防対策と特定健診・特定保健指導 糖尿病の栄養食事療法他																					
5回	臨床栄養①																					
6回	臨床栄養②																					
7回	臨床栄養③ 他																					
8回	まとめ 終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 栄養学 系統看護学講座 医学書院 この他、参考資料を適宜配布する。</p>																					
評価方法	出席状況と終講試験の成績により評価する。																					
備考																						

授業科目		生化学	担当者	藤島 慶
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義 15	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) たべものとして取り入れた栄養素などが、体の中でどのように変化しヒトの健康や生命の維持に関連しているかを理解する。</p> <p>(2) 生化学の知識が医療や看護の実践の場で役立つことを学び、これからの医療高度化の中で、科学的根拠に基づいた看護を行うための基本的な知識と思考法を身につける。</p> <p><授業計画></p>			
	<回>	<内容>		
	1回	生化学ガイダンス		
		糖質代謝 (1) 糖の分類とエネルギー産生		
	2回	糖質代謝 (2) 糖鎖の役割と糖代謝調節		
	3回	脂質代謝 (1) 脂質の役割と種類、消化と体内移動		
	4回	脂質代謝 (2) ① アセチル CoA と β (ベータ) 酸化		
		② 糖新生とコレステロールの合成		
		③ ケトン体の生成と脂肪酸の合成		
		④ アラキドン酸代謝		
5回	アミノ酸代謝 ① タンパク質の機能と消化			
	② 尿素回路とアミノ基転移反応			
	③ 糖新生と生体活性物質の合成			
6回	代謝のまとめ			
	遺伝情報 (1) DNA の複製と体細胞分裂			
7回	遺伝情報 (2) 減数分裂、RNA の転写とタンパク質の翻訳			
8回	終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト： 生化学 系統看護学講座 医学書院			
評価方法	筆記試験・レポート内容を中心に評価する。			
備考				

授業科目		薬理学総論	担当者	兜坂 智浩																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 後期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容 薬物の薬理作用及び人体への影響																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>目標：薬物についての概念や薬理学についての基本的事項、即ち薬物の薬理作用および人体への影響を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>薬理学とはなにか</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>薬力学</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>薬物動態学</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>薬物相互作用</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>有益性と危険性</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>薬と法律 新薬の開発</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>添付文書</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	薬理学とはなにか	2回	薬力学	3回	薬物動態学	4回	薬物相互作用	5回	有益性と危険性	6回	薬と法律 新薬の開発	7回	添付文書	8回	終講テスト
	<回>	<内容>																				
1回	薬理学とはなにか																					
2回	薬力学																					
3回	薬物動態学																					
4回	薬物相互作用																					
5回	有益性と危険性																					
6回	薬と法律 新薬の開発																					
7回	添付文書																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	テキスト：疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 系統看護学講座 医学書院																					
評価方法	基本的には終講試験の成績による。																					
備考																						

授業科目		臨床薬理学	担当者	兜坂 智浩																																																																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																																																
	1	30	講義 30	2年次 前期																																																																
	実務経験	無																																																																		
	その実務経験を生かして行う教育内容 臨床で用いるおもな薬物の薬理作用																																																																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 臨床で用いられている主な薬物について、その薬物の作用を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>抗感染症薬 その1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>抗感染症薬 その2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>抗がん剤</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>免疫治療薬</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>抗アレルギー薬、抗炎症薬</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>末梢神経に作用する薬</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>中枢神経に作用する薬 その1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>中枢神経に作用する薬 その2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>心臓、血管に作用する薬 その1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>心臓、血管に作用する薬 その2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>薬物代謝に作用する薬物</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>漢方薬、消毒薬</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>				<回>	<内容>			1回	抗感染症薬 その1			2回	抗感染症薬 その2			3回	抗がん剤			4回	免疫治療薬			5回	抗アレルギー薬、抗炎症薬			6回	末梢神経に作用する薬			7回	中枢神経に作用する薬 その1			8回	中枢神経に作用する薬 その2			9回	心臓、血管に作用する薬 その1			10回	心臓、血管に作用する薬 その2			11回	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その1			12回	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その2			13回	薬物代謝に作用する薬物			14回	皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬			15回	漢方薬、消毒薬		
	<回>	<内容>																																																																		
	1回	抗感染症薬 その1																																																																		
	2回	抗感染症薬 その2																																																																		
	3回	抗がん剤																																																																		
	4回	免疫治療薬																																																																		
	5回	抗アレルギー薬、抗炎症薬																																																																		
	6回	末梢神経に作用する薬																																																																		
	7回	中枢神経に作用する薬 その1																																																																		
	8回	中枢神経に作用する薬 その2																																																																		
	9回	心臓、血管に作用する薬 その1																																																																		
	10回	心臓、血管に作用する薬 その2																																																																		
	11回	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その1																																																																		
	12回	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その2																																																																		
	13回	薬物代謝に作用する薬物																																																																		
	14回	皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬																																																																		
15回	漢方薬、消毒薬																																																																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 病態生理学 系統看護学講座 医学書院</p> <p>参考文献：適宜提示する</p>																																																																			
評価方法	基本的には終講試験の成績による。																																																																			
備考																																																																				

授業科目		微生物	担当者	松本 愛理																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	15	講義 15	1年次 後期																
	実務経験	無																		
	その実務経験を生かして行う教育内容																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>微生物の基礎 細菌、真菌、原虫、ウイルス</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>感染症の成り立ち 経路、機構</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>外毒素・内毒素, 感染防御</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>感染防御, 自然免疫・獲得免疫: 液性免疫・細胞性免疫</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>ワクチン,</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>感染症の治療</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	微生物の基礎 細菌、真菌、原虫、ウイルス	3回	感染症の成り立ち 経路、機構	4回	外毒素・内毒素, 感染防御	5回	感染防御, 自然免疫・獲得免疫: 液性免疫・細胞性免疫	6回	ワクチン,	7回	感染症の治療	8回	終講テスト
<回>	<内容>																			
1～2回	微生物の基礎 細菌、真菌、原虫、ウイルス																			
3回	感染症の成り立ち 経路、機構																			
4回	外毒素・内毒素, 感染防御																			
5回	感染防御, 自然免疫・獲得免疫: 液性免疫・細胞性免疫																			
6回	ワクチン,																			
7回	感染症の治療																			
8回	終講テスト																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト: 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 4 系統看護学講座 医学書院 参考資料を適宜配布する。</p>																			
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験により評価する。</p>																			
備考																				

授業科目		病態学総論	担当者	吉牟田 直孝																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 後期																		
	実務経験	有																				
	その実務経験を生かして行う教育内容 病的な状態の身体におきている諸変化																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 基本的な病因と病変の特徴を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>循環障害 ショックの分類と病態</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>充血、うっ血、出血、虚血、梗塞、血栓</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>体液の異常 浮腫</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>炎症と修復</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>免疫 自然免疫・獲得免疫</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>アレルギー</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>腫瘍と過形成</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>先天異常</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	循環障害 ショックの分類と病態	2回	充血、うっ血、出血、虚血、梗塞、血栓	3回	体液の異常 浮腫	4回	炎症と修復	5回	免疫 自然免疫・獲得免疫	6回	アレルギー	7回	腫瘍と過形成	8回	先天異常
<回>	<内容>																					
1回	循環障害 ショックの分類と病態																					
2回	充血、うっ血、出血、虚血、梗塞、血栓																					
3回	体液の異常 浮腫																					
4回	炎症と修復																					
5回	免疫 自然免疫・獲得免疫																					
6回	アレルギー																					
7回	腫瘍と過形成																					
8回	先天異常																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進2 系統看護学講座 医学書院</p>																					
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験により評価する。</p>																					
備考																						

授業科目		呼吸・循環器系の 疾病と治療	担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	1年次 前・後期
	実務経験	有		
	その実務経験を生かして行う教育内容 呼吸器・循環器の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	<目標> 呼吸器系・循環器系の疾患の病態と検査・治療について理解する。			
	<授業計画>			
	[呼吸器]			
	1~2回	気道・肺の炎症；風邪、急性気管支炎、インフルエンザ、肺炎、COVID-19 結核		
	3回	間質性疾患；間質性肺炎、塵肺		
	4回	気道疾患；COPD		
	5回	肺循環疾患；肺血栓塞栓症、肺高血圧症	呼吸不全	
	6回	呼吸調節に関する疾患；過換気症候群		
	7回	胸膜の疾患：気胸		
	8回	肺腫瘍：肺がん		
	[循環器]			
	<回>	<内容>		
	9回	心不全の病態と治療		
	10回	先天性心疾患、脂質異常症、高血圧症、動脈硬化、静脈瘤、 静脈血栓症		
	11回	虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）		
	12回	循環器疾患に必要な検査、心臓カテーテル検査・治療		
	13回	不整脈・心電図・ペースメーカー		
14回	心臓弁膜疾患、心筋疾患、心内膜炎			
15回	胸部大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症			
使用教材および参考文献	テキスト：成人看護学〔2〕 呼吸器 成人看護学〔3〕 循環器 系統看護学講座 医学書院 ビデオ、スライド、模型などを参考に講義 適宜資料を配布する。			
評価方法	終講試験、課題、講義への参加度などで評価する。			
備考	専門基礎；呼吸・循環の構造と機能、専門；患者を正しく診る技術（フィジカルアセスメント）の復習を十分にして講義に臨むこと			

授業科目		運動器系の疾病と治療	担当者	牧元 智美																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 前期																		
	実務経験	有																				
	その実務経験を生かして行う教育内容 運動器の疾患の特徴と治療・検査																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 運動器の疾患の特徴と治療・検査について理解する</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1回</td> <td>骨折とは 人体の骨の名称の確認テスト 骨折の分類 治療 治癒経過 症状 合併症</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2回</td> <td>各種の骨折 それぞれの骨折の特徴と治療法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3回</td> <td>大腿頸部骨折について 分類 治療 治癒経過 合併症</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4回</td> <td>脊髄・脊柱の疾患 腰椎椎間板ヘルニアについて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5回</td> <td>脊髄・脊柱の疾患 関節の疾患</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6回</td> <td>神経損傷</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7回</td> <td>骨腫瘍・骨粗鬆症</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	骨折とは 人体の骨の名称の確認テスト 骨折の分類 治療 治癒経過 症状 合併症	2回	各種の骨折 それぞれの骨折の特徴と治療法	3回	大腿頸部骨折について 分類 治療 治癒経過 合併症	4回	脊髄・脊柱の疾患 腰椎椎間板ヘルニアについて	5回	脊髄・脊柱の疾患 関節の疾患	6回	神経損傷	7回	骨腫瘍・骨粗鬆症	8回	終講テスト
<回>	<内容>																					
1回	骨折とは 人体の骨の名称の確認テスト 骨折の分類 治療 治癒経過 症状 合併症																					
2回	各種の骨折 それぞれの骨折の特徴と治療法																					
3回	大腿頸部骨折について 分類 治療 治癒経過 合併症																					
4回	脊髄・脊柱の疾患 腰椎椎間板ヘルニアについて																					
5回	脊髄・脊柱の疾患 関節の疾患																					
6回	神経損傷																					
7回	骨腫瘍・骨粗鬆症																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 「運動器」 医学書院</p>																					
評価方法	<p>課題の提出状況 筆記試験を中心に評価する。</p>																					
備考																						

授業科目		消化器・内分泌系の 疾病と治療	担当者	森山 ゆきみ																				
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																				
	1	30	講義 30	1年次 前期																				
	実務経験	有																						
	その実務経験を生かして行う教育内容 消化器・内分泌系の疾患の特徴と治療・検査																							
授業の 目標 および 授業 計画	<p><目 標> 消化器・内分泌の疾患の病態と治療・検査について理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>消化器疾患の症状とその病態生理 (TBL) 吐血・下血 腹水 黄疸 肝性脳症</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>食道の疾患：胃食道逆流症 (GERD) 食道アカラシア 食道がん</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>胃・十二指腸疾患：胃・十二指腸潰瘍 胃がん</td> </tr> <tr> <td>4回～5回</td> <td>腸および腹膜疾患：潰瘍性大腸炎 クローン病 腹膜炎 腸閉塞 大腸がん</td> </tr> <tr> <td>6回～8回</td> <td>肝臓・胆嚢の疾患：肝炎 肝硬変 肝がん 胆石症 膵臓疾患 (膵炎・膵がん)</td> </tr> <tr> <td>9回～11回</td> <td>下垂体疾患：下垂体腺腫 PRL 産生腫瘍 先端巨大症 シーハン症候群 尿崩症 SIADH 甲状腺疾患疾患：バセドウ病 慢性甲状腺炎 甲状腺がん 副甲状腺 (上皮小体) 疾患：原発性副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症</td> </tr> <tr> <td></td> <td>副腎疾患：原発性アルドステロン症 クッシング症候群 原発性副腎皮質機能低下症</td> </tr> <tr> <td>12回～14回</td> <td>代謝疾患：糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症・痛風</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト まとめ</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	消化器疾患の症状とその病態生理 (TBL) 吐血・下血 腹水 黄疸 肝性脳症	2回	食道の疾患：胃食道逆流症 (GERD) 食道アカラシア 食道がん	3回	胃・十二指腸疾患：胃・十二指腸潰瘍 胃がん	4回～5回	腸および腹膜疾患：潰瘍性大腸炎 クローン病 腹膜炎 腸閉塞 大腸がん	6回～8回	肝臓・胆嚢の疾患：肝炎 肝硬変 肝がん 胆石症 膵臓疾患 (膵炎・膵がん)	9回～11回	下垂体疾患：下垂体腺腫 PRL 産生腫瘍 先端巨大症 シーハン症候群 尿崩症 SIADH 甲状腺疾患疾患：バセドウ病 慢性甲状腺炎 甲状腺がん 副甲状腺 (上皮小体) 疾患：原発性副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症		副腎疾患：原発性アルドステロン症 クッシング症候群 原発性副腎皮質機能低下症	12回～14回	代謝疾患：糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症・痛風	15回	終講テスト まとめ
	<回>	<内容>																						
1回	消化器疾患の症状とその病態生理 (TBL) 吐血・下血 腹水 黄疸 肝性脳症																							
2回	食道の疾患：胃食道逆流症 (GERD) 食道アカラシア 食道がん																							
3回	胃・十二指腸疾患：胃・十二指腸潰瘍 胃がん																							
4回～5回	腸および腹膜疾患：潰瘍性大腸炎 クローン病 腹膜炎 腸閉塞 大腸がん																							
6回～8回	肝臓・胆嚢の疾患：肝炎 肝硬変 肝がん 胆石症 膵臓疾患 (膵炎・膵がん)																							
9回～11回	下垂体疾患：下垂体腺腫 PRL 産生腫瘍 先端巨大症 シーハン症候群 尿崩症 SIADH 甲状腺疾患疾患：バセドウ病 慢性甲状腺炎 甲状腺がん 副甲状腺 (上皮小体) 疾患：原発性副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症																							
	副腎疾患：原発性アルドステロン症 クッシング症候群 原発性副腎皮質機能低下症																							
12回～14回	代謝疾患：糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症・痛風																							
15回	終講テスト まとめ																							
使用 教材 および 参考 文献	<p>テキスト：成人看護学〔5〕 消化器 〔6〕 内分泌・代謝 系統看護学講座 医学書院</p> <p>適宜資料を配布する。</p>																							
評価 方法	<p>終講試験 : 80% TBL や課題等 : 20%</p>																							
備考	<p>消化器・内分泌の構造と機能、病態学総論についての知識が必要。</p>																							

授業科目		腎・泌尿器・生殖器の疾患と治療	担当者	福元 和彦・吉原 剛 白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	2年次 前期
	実務経験	有		
	その実務経験を生かして行う教育内容 腎・泌尿器・生殖器系の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 腎・泌尿器・生殖器系の疾患の病態と治療・検査について学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>I 「腎・泌尿器」</p> <p>1回 腎泌尿器の総論</p> <p>2回 腎不全 腎代替療法 糸球体腎炎</p> <p>3回 泌尿器悪性腫瘍 腎癌,前立腺癌,膀胱癌他</p> <p>4回 排尿障害 前立腺肥大 過活動膀胱 導尿</p> <p>5回 尿路感染症 膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎など</p> <p>6回 先天性疾患 性について</p> <p>7回 まとめ ストーマ</p> <p>8回 腎不全 透析の原理</p> <p>9回 糖尿病と腎不全,透析療法 内シャント シャントの合併症 血液透析の合併症について</p> <p>II 「生殖器」</p> <p>10回 女性生殖器の構造と機能、月経異常</p> <p>11回 性分化疾患、膣炎、性感染症の病態・治療・看護</p> <p>12回 不妊症、不育症、子宮疾患の病態・治療・看護</p> <p>13回 卵巣疾患、絨毛疾患、骨盤臓器脱の病態・治療・看護</p> <p>14回 乳房腫瘍の病態・治療・看護</p> <p>15回 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 成人看護学〔8〕 腎臓・泌尿器 成人看護学〔9〕 女性生殖器 系統看護学講座 医学書院</p> <p>ビデオ,スライド,模型などを参考に講義</p>			
評価方法	I 70% , II 30% の評価とする。 出席状況,小テスト,終講試験			
備考				

授業科目		血液・脳神経系の 疾病と治療	担当者	中河 史朗 森 隆徳 吉田 小百合 穂山 みどり 島津 めぐみ
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	2年次 前期
	実務経験	有		
	その実務経験を生かして行う教育内容 血液・造血器系, 脳・神経系の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	<目 標> 血液・造血器系, 脳・神経系の疾患の病態と治療・検査を理解する。			
	<授業計画>			
	<回>		<内容>	
	I 「血液」			
	1回	赤血球系の異常 (1) 貧血の原因、分類		
	2回	赤血球系の異常 (2) 貧血		
	3回	白血球系の異常 (1) 白血球減少・増加の原因		
	4回	白血球系の異常 (2) 白血病		
	5回	リンパ球系の異常		
	6回	血液凝固系の異常、血栓、出血傾向		
	7回	血小板の異常、輸血		
	II 「脳神経」			
	8回	症状とその病態生理		
	9回	疾患の理解 脳血管障害：くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、TIA、急性硬膜下血腫		
	10回	疾患の理解 (感染症：脳炎・髄膜炎・脳膿瘍)		
	11回	疾患の理解 (筋ジストロフィー、重症筋無力症)		
12回	疾患の理解 (パーキンソン病)			
13回	疾患の理解 (認知症)			
14回	疾患の理解 グループワーク：水頭症・もやもや病・ ギランバレー症候群・脊髄圧減少症・顔面神経麻痺			
15回	発表			
16回	終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト：成人看護学〔4〕 血液・造血器 〔7〕 脳神経 系統看護学講座 医学書院 ビデオ, スライド, 模型などを参考に講義			
評価方法	I 50% , II 50% の評価とする 講義への取り組み及び終講試験により評価する。			
備考				

授業科目		治療総論	担当者	的場 康平												
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別												
	1	15	講義 15	2年次 前期												
	実務経験	無														
	その実務経験を生かして行う教育内容															
授業の目標および授業計画	<p><目 標> おもな疾患に対する治療法について理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>画像診断 (放射線の種類と一般利用、X線診断、CT、MRI、超音波、IVR、血管造影、核医学検査(シンチ,SPECT,PET))</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>放射線療法 目的・種類と実際・放射線障害と放射線防護</td> </tr> <tr> <td>3~5回</td> <td>手術療法 麻酔とは 外科治療</td> </tr> <tr> <td>6~7回</td> <td>化学療法</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	画像診断 (放射線の種類と一般利用、X線診断、CT、MRI、超音波、IVR、血管造影、核医学検査(シンチ,SPECT,PET))	2回	放射線療法 目的・種類と実際・放射線障害と放射線防護	3~5回	手術療法 麻酔とは 外科治療	6~7回	化学療法	8回	終講試験
<回>	<内容>															
1回	画像診断 (放射線の種類と一般利用、X線診断、CT、MRI、超音波、IVR、血管造影、核医学検査(シンチ,SPECT,PET))															
2回	放射線療法 目的・種類と実際・放射線障害と放射線防護															
3~5回	手術療法 麻酔とは 外科治療															
6~7回	化学療法															
8回	終講試験															
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 臨床放射線医学 別巻 臨床外科看護総論 別巻 がん看護学 別巻 系統看護学講座 医学書院</p>															
評価方法	講義への取り組み及び終講試験により評価する。															
備考																

授業科目		保健医療論	担当者	富吉 良子																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 前期																		
	実務経験	有																				
	その実務経験を生かして行う教育内容 現代の健康問題と医療 医療の高度化に伴う医の倫理																					
授業の目標および授業計画	<p><目標> 保健・医療の概念と動向を知り、現代における医学・医療や看護・介護・福祉の全体像を把握し、現代医療の実像と将来への展望について理解を深める。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>社会の動向 社会の変遷 少子高齢社会</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>生命・健康・病について考える</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>保健・医療・福祉を理解する 医療と法制度</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>障害者のノーマライゼーションとインクルージョン</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>現代医療と新たな課題 先端医療 臓器移植</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>救急医療 患者の安全 倫理上の葛藤</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>災害医療・看護</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	社会の動向 社会の変遷 少子高齢社会	2回	生命・健康・病について考える	3回	保健・医療・福祉を理解する 医療と法制度	4回	障害者のノーマライゼーションとインクルージョン	5回	現代医療と新たな課題 先端医療 臓器移植	6回	救急医療 患者の安全 倫理上の葛藤	7回	災害医療・看護	8回	終講テスト
<回>	<内容>																					
1回	社会の動向 社会の変遷 少子高齢社会																					
2回	生命・健康・病について考える																					
3回	保健・医療・福祉を理解する 医療と法制度																					
4回	障害者のノーマライゼーションとインクルージョン																					
5回	現代医療と新たな課題 先端医療 臓器移植																					
6回	救急医療 患者の安全 倫理上の葛藤																					
7回	災害医療・看護																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 総合医療論 系統看護学講座 医学書院 医療概論 系統看護学講座 医学書院</p> <p>参考文献： 社会保障・社会福祉 他</p>																					
評価方法	<p>課題レポート 20点 終講テスト 80点</p>																					
備考																						

授業科目		社会福祉論	担当者	勝 智樹																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 後期																		
	実務経験	無																				
	その実務経験を生かして行う教育内容																					
授業の目標および授業計画	<p><目標> 社会福祉の概念・歴史的変遷・制度について理解を深め、国民の福祉に対するニーズを学び今後の看護活動に役立てる。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>I 社会福祉・社会保障の意義 社会福祉の基本的性格 社会福祉の歴史的変遷</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>II 社会福祉の分野とサービスの内容</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>社会福祉の動向</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>III 医療と福祉の現状と社会資源の活用 医療保険制度</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>介護保険制度</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>年金保険制度</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>生活保護、障害福祉</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	I 社会福祉・社会保障の意義 社会福祉の基本的性格 社会福祉の歴史的変遷	2回	II 社会福祉の分野とサービスの内容	3回	社会福祉の動向	4回	III 医療と福祉の現状と社会資源の活用 医療保険制度	5回	介護保険制度	6回	年金保険制度	7回	生活保護、障害福祉	8回	終講テスト
	<回>	<内容>																				
1回	I 社会福祉・社会保障の意義 社会福祉の基本的性格 社会福祉の歴史的変遷																					
2回	II 社会福祉の分野とサービスの内容																					
3回	社会福祉の動向																					
4回	III 医療と福祉の現状と社会資源の活用 医療保険制度																					
5回	介護保険制度																					
6回	年金保険制度																					
7回	生活保護、障害福祉																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 系統看護学講座 医学書院</p> <p>その他：適宜ビデオ等視聴</p>																					
評価方法	基本的には出席状況と終講試験により評価する。																					
備考																						

授業科目		障害者福祉論	担当者	勝 智樹																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	15	講義 15	2年次 前・後期																
	実務経験	有	障害者支援施設指導員																	
	その実務経験を生かして行う教育内容 障害福祉の理念・制度 活用の実際																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 障害者福祉の概念を理解し、現在抱えている問題点や背景を知り、看護職としての役割を学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>国際生活機能分類（ICF）</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>身体障害者とその分類に関して</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>障害福祉の基本理念（障害者の人権）</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>障害者施策の発展</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>支援費制度</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>障害者福祉のサービス体系</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>障害者福祉関連施策</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	国際生活機能分類（ICF）	2回	身体障害者とその分類に関して	3回	障害福祉の基本理念（障害者の人権）	4回	障害者施策の発展	5回	支援費制度	6回	障害者福祉のサービス体系	7回	障害者福祉関連施策
<回>	<内容>																			
1回	国際生活機能分類（ICF）																			
2回	身体障害者とその分類に関して																			
3回	障害福祉の基本理念（障害者の人権）																			
4回	障害者施策の発展																			
5回	支援費制度																			
6回	障害者福祉のサービス体系																			
7回	障害者福祉関連施策																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 1章 2章 4章 7章 系統看護学講座 医学書院</p>																			
評価方法	終講試験により評価する。																			
備考																				

授業科目		臨床心理学	担当者	畑田 惣一郎
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	1年次 前期
	実務経験	有	臨床心理士	
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康問題と人間心理との関係 病的状態の心理状態への援助法			
授業の 目標および 授業計画	<目 標> 健康問題と人間心理の関係について触れ、人間の病的状態における心理状態に対し、どのような援助を必要としているかについて方向性を理解する。			
	<授業計画>			
	<回>	<内容>		
	1回	心理学のイメージを表現する		
	2回	風景構成法		
	3回	コミュニケーションについて SST 体験		
	4回	コミュニケーションについて 受信、処理、送信		
	5回	心理検査		
	6回	高齢者用検査		
	7回	ストレス		
	8回	Y-G 性格検査		
	9回	バウムテスト		
	10回	心理面接について カウンセラーの基本的態度・諸技法		
	11回	思考の傾向、行動療法、認知行動療法		
	12回	患者への対応 グループ発表		
13回	患者への対応 グループ発表			
14回	患者・看護師について振り返り			
15回	まとめ レポート			
使用 教材 および 参考 文献	必要時資料配布する。 参考文献、図書についてもその都度提示する。			
評価 方法	出席点と筆記試験（レポートも含む）で行う。			
備考				

授業科目		公衆衛生	担当者	財部 マチ子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	3年次 後期
	実務経験	有	保健師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 感染症・学校保健・産業保健・精神保健における現状と課題 母子保健・成人保健・老年保健について地域保健の実際			
授業の目標および授業計画	<目 標> 地域保健の概要について学び、ヘルスプロモーション活動における今後の課題を知る。			
	<授業計画>			
	<回>	<内容>		
	1～2回	公衆衛生の定義と歴史、公衆衛生の活動対象		
	3回	公衆衛生のしくみ		
	4回	集団の健康を捉えるための手法 疫学・保健統計		
	5回	環境と健康		
	6回	感染症とその予防対策		
	7～10回	地域保健 母子保健 成人保健 高齢者保健 精神保健 障害者保健		
	11回	地域保健 歯科保健 難病支援・障害支援 感染症対策		
	12回	地域の環境と健康について学ぶ 環境問題・保健医療福祉の状況 ヘルスプロモーション活動について		
	13回	学校と健康		
	14回	職場と健康 健康危機管理・災害保健		
	15回	まとめ・終講テスト		
	使用教材および参考文献	テキスト： 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 系統看護学講座 医学書院 参考文献：国民衛生の動向 厚生統計協会		
評価方法	小テスト 終講テスト レポート 等 出席状況・授業態度を参考とする。			
備考				

授業科目		看護コミュニケーション技術	担当者	島津 めぐみ														
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別														
	1	15	講義 15	1年次 前期														
	実務経験	有	看護師															
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護に必要なコミュニケーション技術																	
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を習得する。</p> <p>(2) コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>看護技術とは コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程</td> </tr> <tr> <td>3～4回</td> <td>関係構築のためのコミュニケーションの基本 効果的なコミュニケーションの実際</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>オンラインコミュニケーション コミュニケーション障害への対応</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>プロセスレコードの意義と書き方</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>コミュニケーションの演習</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	看護技術とは コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程	3～4回	関係構築のためのコミュニケーションの基本 効果的なコミュニケーションの実際	5回	オンラインコミュニケーション コミュニケーション障害への対応	6回	プロセスレコードの意義と書き方	7回	コミュニケーションの演習	8回	終講テスト
<回>	<内容>																	
1～2回	看護技術とは コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程																	
3～4回	関係構築のためのコミュニケーションの基本 効果的なコミュニケーションの実際																	
5回	オンラインコミュニケーション コミュニケーション障害への対応																	
6回	プロセスレコードの意義と書き方																	
7回	コミュニケーションの演習																	
8回	終講テスト																	
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 医学書院</p> <p>プリント、ビデオなどを参考に講義</p>																	
評価方法	筆記試験・レポート内容を中心に評価する。																	
備考																		

授業科目		患者を正しく診る技術	担当者	赤崎 里美																						
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																						
	1	30	講義 20・演習 10	1 年次 前期																						
	実務経験	有	看護師																							
	その実務経験を生かして行う教育内容 一般状態の観察、生命の徴候の正確な測定方法																									
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) ヘルスアセスメントとは何かを理解する。</p> <p>(2) バイタルサインの基礎的知識を学び、正確な測定方法を体得する。</p> <p>(3) 患者の健康状態を知るためのフィジカルアセスメントの基本を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1 回</td> <td>ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観 フィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診)</td> </tr> <tr> <td>2 回</td> <td>バイタルサイン測定の目的と観察、アセスメント</td> </tr> <tr> <td>3～5 回</td> <td>バイタルサイン測定の実際 (協働学習 演習含む)</td> </tr> <tr> <td>6～7 回</td> <td>バイタルサイン測定 (体温・脈拍・呼吸・血圧の異常)</td> </tr> <tr> <td>8～9 回</td> <td>バイタルサイン測定実施、報告、記録 (演習含む)、その他の計測</td> </tr> <tr> <td>10 回</td> <td>呼吸器のフィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td>11 回</td> <td>循環器のフィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td>12 回</td> <td>消化器のフィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td>13～14 回</td> <td>演習 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション</td> </tr> <tr> <td>15 回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1 回	ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観 フィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診)	2 回	バイタルサイン測定の目的と観察、アセスメント	3～5 回	バイタルサイン測定の実際 (協働学習 演習含む)	6～7 回	バイタルサイン測定 (体温・脈拍・呼吸・血圧の異常)	8～9 回	バイタルサイン測定実施、報告、記録 (演習含む)、その他の計測	10 回	呼吸器のフィジカルアセスメント	11 回	循環器のフィジカルアセスメント	12 回	消化器のフィジカルアセスメント	13～14 回	演習 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション	15 回	終講テスト
	<回>	<内容>																								
1 回	ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観 フィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診)																									
2 回	バイタルサイン測定の目的と観察、アセスメント																									
3～5 回	バイタルサイン測定の実際 (協働学習 演習含む)																									
6～7 回	バイタルサイン測定 (体温・脈拍・呼吸・血圧の異常)																									
8～9 回	バイタルサイン測定実施、報告、記録 (演習含む)、その他の計測																									
10 回	呼吸器のフィジカルアセスメント																									
11 回	循環器のフィジカルアセスメント																									
12 回	消化器のフィジカルアセスメント																									
13～14 回	演習 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション																									
15 回	終講テスト																									
使用教材および参考文献	<p>テキスト：基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 医学書院 基礎・臨床 看護技術 医学書院</p> <p>プリント、DVDなどを参考に講義</p>																									
評価方法	課題 20% 演習 10% 終講試験 70%																									
備考	バイタルサイン測定の技術試験を合格したうえで、終講試験の受験資格が得られることとする。																									

授業科目		呼吸・循環・体温を整える技術	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 22・演習 8	1 年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容 機能障害のメカニズムと主な症状に対するケア 医療機器の原理			
授業の目標および授業計画	<目 標>			
	(1) 酸素・人工呼吸療法の目的と方法を理解する。			
	(2) 排痰ケア、一時・持続吸引の目的と方法を理解する。			
	(3) 体温調節、末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する。			
	(4) 医療機器の原理と実際を理解する。			
	<授業計画>			
	<回>	<内容>		
	1 回	体温管理の援助技術、末梢循環促進ケア		
	2 回	罨法（温罨法・冷罨法）の目的と方法		
	3 回	吸入療法の目的と種類、方法、薬物吸入療法		
	4 回	酸素吸入療法の目的と方法		
	5～6 回	排痰ケア、体位ドレナージの目的と実施（演習含む）		
	7～8 回	吸引（一時的・持続的吸引） 口・鼻腔吸引・気管内吸引		
	9 回	胸腔穿刺		
	10 回	輸液ポンプ・シリンジポンプの使用目的、使用方法		
11～12 回	演習（吸入・酸素吸入・酸素ポンベの取り扱い・喀痰吸引 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用）			
13～14 回	人工呼吸療法			
15 回	終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト：基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 医学書院 基礎・臨床 看護技術 医学書院			
評価方法	課題：20% 演習：10% 終講試験：70%			
備考				

授業科目		環境調整・活動・休息 の援助技術	担当者	白石 睦 島津 めぐみ	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義 16・演習 14	1年次 前期	
	実務経験	有	看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 環境調整技術 活動・休息援助技術				
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 環境および療養生活の構成要素を理解し、病室・病床環境のアセスメントと調整ができる。</p> <p>(2) ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換ができる。</p> <p>(3) 睡眠と睡眠障害とその援助方法について理解する。</p> <p>(4) ボディーメカニクス、体位変換、移乗・移送について理解し、実施することができる</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>I 「環境調整技術」</p> <p>1回 環境とは、療養生活の環境</p> <p>2回 病室の環境のアセスメントと病床を整えるための基礎知識</p> <p>3回 ベッド周囲の環境整備についてグループで考える</p> <p>4回 演習 リネンの畳み方、ベッドメイキングの実際</p> <p>5回 演習 一人で行うリネン交換、一人で行う臥床患者のリネン交換</p> <p>6回 演習 二人で行う就床患者のリネン交換</p> <p>7回 演習 技術テストについて、</p> <p>II 「活動・休息援助技術」</p> <p>1回～2回 睡眠の種類・メカニズム、睡眠障害のアセスメント・援助</p> <p>3回 運動・活動とは、基本的活動・ボディーメカニクスについて</p> <p>4回 活動・運動の援助 (姿勢、体位、良肢位、ポジショニング) について</p> <p>5回 演習 (ベッド上での水平・上方移動、体位変換、ポジショニング)</p> <p>6回 演習 (起き上がり、立ち上がり、杖歩行時の援助)</p> <p>7回 演習 (車いす・ポータブルトイレへの移乗)</p> <p>8回 演習 (ストレッチャーへの移乗・移動、車いすへの移乗・移動)</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：基礎看護技術 II 系統看護学講座 医学書院</p> <p> 基礎・臨床 看護技術 系統看護学講座 医学書院</p>			
	評価方法	<p>基本的には演習、リフレクションシート、終講試験の成績と、看護技術試験で評価基準に到達していること。</p> <p>I : 50%、II : 50%の評価とする。</p>			
	備考				

授業科目		皮膚・粘膜保全の 援助技術	担当者	島津 めぐみ 白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 10・演習 20	1年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 清潔援助技術 感染予防についての技術			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> (1) 日常生活における対象の清潔ニーズに応じた援助技術を学ぶ。 (2) 感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な滅菌操作ができる。</p> <p><授業計画> <回> <内容></p> <p>I 「清潔援助技術」</p> <p>1回 皮膚粘膜の構造と機能、清潔の意義</p> <p>2回 口腔ケア・入浴介助・陰部洗浄の基礎知識および援助の実際</p> <p>3回 手浴・足浴・洗髪の基礎知識および援助の実際</p> <p>4回 衣生活の援助技術の基礎知識および援助の実際</p> <p>5回 臥床患者の寝衣交換の実際（演習） 点滴中の患者の寝衣交換の実際（演習）</p> <p>6回 清拭の基礎知識および援助の実際</p> <p>7回 清拭の援助方法実施計画（グループワーク）</p> <p>8～10回 演習（清拭・手浴・足浴・洗髪）</p> <p>II 「感染予防」</p> <p>1回 感染防止の基礎知識・標準予防策・感染経路別予防策</p> <p>2回 洗浄・消毒・滅菌 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>3回～4回 無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋装着演習</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座 医学書院 基礎・臨床 看護技術 医学書院			
評価方法	基本的には、演習・レポート・終講試験により評価する。			
備考				

授業科目		与薬の援助技術	担当者	島津 めぐみ														
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別														
	1	15	講義 10・演習 5	1 年次 後期														
	実務経験	有	看護師															
	その実務経験を生かして行う教育内容 診療に伴う援助技術																	
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 薬物療法の目的・意義について理解できる。</p> <p>(2) 薬における看護師の位置づけ、および各職種の役割を理解できる。</p> <p>(3) 薬物の投与方法とそれぞれの特徴を理解できる。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>薬物療法の意義、薬物療法の基礎的知識 薬物療法における看護の役割</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>正しい薬剤の投与、与薬後の状態評価</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>内服薬の投与方法（事例を活用して）</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>各注射法について</td> </tr> <tr> <td>6～7回</td> <td>皮下・筋肉内・静脈内注射をモデル人形で実施 輸血</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	薬物療法の意義、薬物療法の基礎的知識 薬物療法における看護の役割	3回	正しい薬剤の投与、与薬後の状態評価	4回	内服薬の投与方法（事例を活用して）	5回	各注射法について	6～7回	皮下・筋肉内・静脈内注射をモデル人形で実施 輸血	8回	終講試験
<回>	<内容>																	
1～2回	薬物療法の意義、薬物療法の基礎的知識 薬物療法における看護の役割																	
3回	正しい薬剤の投与、与薬後の状態評価																	
4回	内服薬の投与方法（事例を活用して）																	
5回	各注射法について																	
6～7回	皮下・筋肉内・静脈内注射をモデル人形で実施 輸血																	
8回	終講試験																	
使用教材および参考文献	<p>テキスト：基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座 医学書院 基礎・臨床 看護技術 医学書院</p>																	
評価方法	基本的には、演習・レポート・終講試験により評価する。																	
備考																		

授業科目		看護の思考と 行動の道筋	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	1年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者理解 看護の思考過程 看護過程展開方法			
授業の目標および授業計画	<目 標> (1) 看護の対象を理解する。 (2) 看護の思考過程がわかる。 (3) 看護の展開方法がわかる。 (4) 紙上事例を用いて看護過程を展開できる。			
	<授業計画>			
	<回>	<内容>		
	1回	看護とは 看護過程の意義		
	2回	看護過程の各段階 看護理論		
	3回	①アセスメント/情報収集 事例を用いて情報を捉える		
	4回	②アセスメントの枠組み		
	5回	③アセスメント/分析 情報の分析解釈 カテゴリー毎にS・Oの分類、情報のクラスタリングを行う ニーズの充足・未充足について考える		
	6回	アセスメント/分析 情報の分析解釈		
	7回	アセスメント/分析 情報の分析解釈		
	8～9回	関連図を書くことで問題点・力を導き出す		
	10回	看護診断・目標の設定 達成基準を考える		
	11回	目標達成するための計画を考える		
	13回	個別性を踏まえた計画であるか評価する		
	14回	記録方法		
15回	SOAP 記録			
使用教材および参考文献	テキスト：基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座 医学書院 基礎・臨床 看護技術 医学書院 疾患別 看護過程 医学書院 症状別 看護過程 医学書院			
評価方法	終講試験 (30%) および各レポート (70%) で評価する。			
備考				

授業科目		生体モニタリングと 救命救急処置	担当者	村下 清美																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 7・演習 8	1 年次 後期																		
	実務経験	有	看護師																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 生体情報のモニタリングの意義と看護の実際 救命救急を必要とする対象への看護技術																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 生体情報のモニタリングについて理解し、看護の実際を学ぶ 救命救急を必要とする対象への看護技術について学ぶ</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1 回</td> <td>クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護の場 クリティカルケア看護の対象</td> </tr> <tr> <td>2 回</td> <td>観察とアセスメント 使用する物品、アセスメントの特徴、緊急検査</td> </tr> <tr> <td>3 回</td> <td>急変時の対応 急変時の初期対応 院内の救急体制 急変時における看護師の役割 急変に備えた準備</td> </tr> <tr> <td>4 回</td> <td>心肺停止状態への対応 BLS 一次救命処置</td> </tr> <tr> <td>5 回</td> <td>心肺停止状態への対応 ALS 二次救命処置</td> </tr> <tr> <td>6 回</td> <td>生体情報のモニタリング：心電図モニター、12 誘導心電図、 観血的動脈圧モニター、中心静脈カテーテル</td> </tr> <tr> <td>7 回</td> <td>生体情報のモニタリング 診察・検査・処置の看護 救急時の看護技術 <演習>12 誘導心電図、気管内挿管介助、静脈血採血</td> </tr> <tr> <td>8 回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1 回	クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護の場 クリティカルケア看護の対象	2 回	観察とアセスメント 使用する物品、アセスメントの特徴、緊急検査	3 回	急変時の対応 急変時の初期対応 院内の救急体制 急変時における看護師の役割 急変に備えた準備	4 回	心肺停止状態への対応 BLS 一次救命処置	5 回	心肺停止状態への対応 ALS 二次救命処置	6 回	生体情報のモニタリング：心電図モニター、12 誘導心電図、 観血的動脈圧モニター、中心静脈カテーテル	7 回	生体情報のモニタリング 診察・検査・処置の看護 救急時の看護技術 <演習>12 誘導心電図、気管内挿管介助、静脈血採血	8 回	終講テスト
<回>	<内容>																					
1 回	クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護の場 クリティカルケア看護の対象																					
2 回	観察とアセスメント 使用する物品、アセスメントの特徴、緊急検査																					
3 回	急変時の対応 急変時の初期対応 院内の救急体制 急変時における看護師の役割 急変に備えた準備																					
4 回	心肺停止状態への対応 BLS 一次救命処置																					
5 回	心肺停止状態への対応 ALS 二次救命処置																					
6 回	生体情報のモニタリング：心電図モニター、12 誘導心電図、 観血的動脈圧モニター、中心静脈カテーテル																					
7 回	生体情報のモニタリング 診察・検査・処置の看護 救急時の看護技術 <演習>12 誘導心電図、気管内挿管介助、静脈血採血																					
8 回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト：基礎看護技術 II 系統看護学講座 医学書院 基礎・臨床 看護技術 医学書院</p>																					
評価方法	授業内の小課題および終講試験で評価を行います。																					
備考																						

授業科目		看護の探求	担当者	元 桂恵																								
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																								
	1	30	講義 20・演習 10	3年次 前・後期																								
	実務経験	有	看護師																									
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護研究の基本的なプロセス・ルール 文献検索、文献検討の方法 プレゼンテーション方法																											
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 看護研究を実施するための基本的なプロセスとルールを理解する。</p> <p>(2) 看護における疑問や課題を解決するための文献検索と文献検討の方法を学ぶ。</p> <p>(3) 基本構造に則ってケースレポートにまとめることができる。</p> <p>(4) ケースレポートを聴き手にわかりやすく口頭発表できる。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>看護における研究の意義・研究全体の流れ</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>文献検索と文献検討の方法について</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>研究テーマの絞り込みのプロセス 研究デザイン 量的な研究と質的な研究の特徴</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>データ収集・分析方法 研究倫理・看護研究における倫理的配慮</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>研究計画書の必要性と作成方法</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>研究論文のまとめ方の約束事・クリティーク方法</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>研究の論文のクリティーク</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>ケースレポートの基本構造（まとめ方） 口頭発表について（スライド作成・発表原稿の作成）</td> </tr> <tr> <td>9～11回</td> <td>ケースレポート・プレゼンテーション作成</td> </tr> <tr> <td>12～14回</td> <td>ケースレポート発表</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	看護における研究の意義・研究全体の流れ	2回	文献検索と文献検討の方法について	3回	研究テーマの絞り込みのプロセス 研究デザイン 量的な研究と質的な研究の特徴	4回	データ収集・分析方法 研究倫理・看護研究における倫理的配慮	5回	研究計画書の必要性と作成方法	6回	研究論文のまとめ方の約束事・クリティーク方法	7回	研究の論文のクリティーク	8回	ケースレポートの基本構造（まとめ方） 口頭発表について（スライド作成・発表原稿の作成）	9～11回	ケースレポート・プレゼンテーション作成	12～14回	ケースレポート発表	15回	終講試験
	<回>	<内容>																										
1回	看護における研究の意義・研究全体の流れ																											
2回	文献検索と文献検討の方法について																											
3回	研究テーマの絞り込みのプロセス 研究デザイン 量的な研究と質的な研究の特徴																											
4回	データ収集・分析方法 研究倫理・看護研究における倫理的配慮																											
5回	研究計画書の必要性と作成方法																											
6回	研究論文のまとめ方の約束事・クリティーク方法																											
7回	研究の論文のクリティーク																											
8回	ケースレポートの基本構造（まとめ方） 口頭発表について（スライド作成・発表原稿の作成）																											
9～11回	ケースレポート・プレゼンテーション作成																											
12～14回	ケースレポート発表																											
15回	終講試験																											
使用教材および参考文献	テキスト：楽しくできるわかりやすい看護研究論文の書き方（照林社）																											
評価方法	<p>1) 終講試験（30%）</p> <p>2) 課題（用語の定義・クリティーク等）（30%）</p> <p>3) ケースレポート・口頭発表（40%）</p> <p>* 提出期限・ワークや発表会の参加状況を重視する</p>																											
備考																												

授業科目		病院における看護の場と人を知る実習	担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	45	実習 45	1年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者理解 日常生活援助技術 コミュニケーション技術			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院施設の概要、看護の対象の入院環境と療養環境を知り、助言を得ながら必要な日常生活行動の援助ができる。 <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・各部署の概要がわかる。 2. 入院の生活環境がわかる。 3. 看護活動の実際がわかる。 4. 対象とのコミュニケーションができる。 5. 看護職チームや多職種とのかかわり連携について知ることができる。 6. 看護を学ぶ意欲を高めることができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受ける。 2. 看護援助の見学 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションの実施。 4. 指導者とともに看護活動を実践する。 5. 看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 2) 対象把握の技術 (バイタルサイン) 3) 日常生活行動を支える技術 4) 安全・安楽の技術 5) 観察・記録 <p>IV. 実習場所</p> <p>霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
履修要件	開講している専門分野の基礎看護学の単位を取得もしくは取得見込みがあること			
授業の進め方	「病院における看護の場と人を知る実習」要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		看護実践力の基礎を 培う実習	担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習 90	2年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者の統合的理解 看護過程展開 日常生活援助技術 治療処置援助技術			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 日常生活行動の援助を通して患者を統合的に理解し、患者に適応した看護過程の展開ができる</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院生活における患者の問題点を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 患者のもつ看護上の問題を明確にし、必要な日常生活行動の援助を計画できる。 3. 計画に基づいて患者に適応した援助ができる。 4. 援助した結果を評価できる。 5. 保健医療福祉チームの一員としての自覚ができる。 6. 問題意識をもち、主体的に学習にとりくむ態度を身につける。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害により日常生活に支障のある成人・老人の日常生活の援助を行う。 2. 受け持ち患者への看護過程を展開する。 3. 看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 2) 日常生活行動を支える技術 3) 診療に伴う援助技術 4) 学習支援技術 5) 安全・安楽の技術 6) 観察・記録 <p>IV. 実習場所 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野の基礎看護学の単位を取得していること 2. 既習の専門基礎分野の単位を取得または取得見込みであること。 			
授業の進め方	「看護実践力の基礎を培う実習」要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		地域での暮らしを知る	担当者	赤崎 里美																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	30	講義 10・演習 20	1 年次 前期																		
	実務経験	有	看護師																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護の対象者を生活者として理解し、暮らしと健康の関係 地域共生社会および地域包括ケアシステムの理解																					
授業の目標および授業計画	<p><目標> 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活や健康へ及ぼす影響を学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td> 人々の暮らしと健康 1. 人々の暮らしの理解 ①暮らしとは ②暮らしと健康の関係 ③暮らしのなかで健康をとらえる 2. 地域・在宅看護の役割 ①地域・在宅看護の基盤となる考え方 ②地域・在宅看護に求められる役割 </td> </tr> <tr> <td>3～4回</td> <td> 暮らしの基盤としての地域の理解 1. 暮らしと地域 ①地域とは ②人々の暮らす地域の多様性 2. 暮らしと地域を理解するための考え方 ①システム理論 ②システム思考 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ①地域包括ケアシステム ②地域共生社会 </td> </tr> <tr> <td>5～6回</td> <td>地域の特性を知る</td> </tr> <tr> <td>7～8回</td> <td>地区踏査 地区踏査での学び</td> </tr> <tr> <td>9～10回</td> <td>地域の住民組織による支え合いについて実際の取り組みを見学実習</td> </tr> <tr> <td>11～13回</td> <td>見学実習振り返り まとめ 発表</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td> 生活と健康の多様性 1. 生活と健康をめぐる動向 ①人口・世帯に関する動向 ②健康に関する動向 ③医療・介護提供体制の方向性 人口や疾病構造の変化がもたらす影響について話し合う </td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	人々の暮らしと健康 1. 人々の暮らしの理解 ①暮らしとは ②暮らしと健康の関係 ③暮らしのなかで健康をとらえる 2. 地域・在宅看護の役割 ①地域・在宅看護の基盤となる考え方 ②地域・在宅看護に求められる役割	3～4回	暮らしの基盤としての地域の理解 1. 暮らしと地域 ①地域とは ②人々の暮らす地域の多様性 2. 暮らしと地域を理解するための考え方 ①システム理論 ②システム思考 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ①地域包括ケアシステム ②地域共生社会	5～6回	地域の特性を知る	7～8回	地区踏査 地区踏査での学び	9～10回	地域の住民組織による支え合いについて実際の取り組みを見学実習	11～13回	見学実習振り返り まとめ 発表	14回	生活と健康の多様性 1. 生活と健康をめぐる動向 ①人口・世帯に関する動向 ②健康に関する動向 ③医療・介護提供体制の方向性 人口や疾病構造の変化がもたらす影響について話し合う	15回	終講試験
	<回>	<内容>																				
1～2回	人々の暮らしと健康 1. 人々の暮らしの理解 ①暮らしとは ②暮らしと健康の関係 ③暮らしのなかで健康をとらえる 2. 地域・在宅看護の役割 ①地域・在宅看護の基盤となる考え方 ②地域・在宅看護に求められる役割																					
3～4回	暮らしの基盤としての地域の理解 1. 暮らしと地域 ①地域とは ②人々の暮らす地域の多様性 2. 暮らしと地域を理解するための考え方 ①システム理論 ②システム思考 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ①地域包括ケアシステム ②地域共生社会																					
5～6回	地域の特性を知る																					
7～8回	地区踏査 地区踏査での学び																					
9～10回	地域の住民組織による支え合いについて実際の取り組みを見学実習																					
11～13回	見学実習振り返り まとめ 発表																					
14回	生活と健康の多様性 1. 生活と健康をめぐる動向 ①人口・世帯に関する動向 ②健康に関する動向 ③医療・介護提供体制の方向性 人口や疾病構造の変化がもたらす影響について話し合う																					
15回	終講試験																					
使用教材および参考文献	テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院																					
評価方法	ワーク、演習、プレゼンテーション、終講試験の成績により評価する。																					
備考																						

授業科目		在宅で療養・生活する 人とその家族の理解	担当者	西 美恵子								
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別								
	1	15	講義 15	1 年次 後期								
	実務経験	有	看護師・保健師									
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で暮らす療養者とその家族の特性 地域・在宅看護におけるリスクと役割											
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 地域・在宅看護の基盤となる基本理念と在宅看護に特有な倫理的問題について理解する。</p> <p>(2) 地域・在宅看護の対象者の多様性と、家族のとらえ方を学び、地域・在宅看護の役割を理解する。</p> <p>(3) 暮らしの中のリスク・災害における地域・在宅看護の役割を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1 回</td> <td>地域・在宅看護の概念 地域・在宅看護を展開するための基本理念（アドボカシー、パートナーシップ、ストレングス）/地域・在宅看護における倫理</td> </tr> <tr> <td>2～7 回</td> <td>地域・在宅看護の対象 1. 地域・在宅看護の対象者 2. 家族の理解 3. 地域に暮らす対象者の理解と看護 地域における暮らしを支える看護 1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護 3. 広がる看護の対象と提供方法 4. 地域における家族への看護 5. 地域における地域におけるライフステージに応じた看護 6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 7. 地域での暮らしにおける災害対策</td> </tr> <tr> <td>8 回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1 回	地域・在宅看護の概念 地域・在宅看護を展開するための基本理念（アドボカシー、パートナーシップ、ストレングス）/地域・在宅看護における倫理	2～7 回	地域・在宅看護の対象 1. 地域・在宅看護の対象者 2. 家族の理解 3. 地域に暮らす対象者の理解と看護 地域における暮らしを支える看護 1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護 3. 広がる看護の対象と提供方法 4. 地域における家族への看護 5. 地域における地域におけるライフステージに応じた看護 6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 7. 地域での暮らしにおける災害対策	8 回	終講試験
<回>	<内容>											
1 回	地域・在宅看護の概念 地域・在宅看護を展開するための基本理念（アドボカシー、パートナーシップ、ストレングス）/地域・在宅看護における倫理											
2～7 回	地域・在宅看護の対象 1. 地域・在宅看護の対象者 2. 家族の理解 3. 地域に暮らす対象者の理解と看護 地域における暮らしを支える看護 1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護 3. 広がる看護の対象と提供方法 4. 地域における家族への看護 5. 地域における地域におけるライフステージに応じた看護 6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 7. 地域での暮らしにおける災害対策											
8 回	終講試験											
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 医学書院</p> <p>参考文献：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 1 地域療養を支えるケア メディカ出版 厚生指標 国民衛生の動向 「これからの在宅看護論」「家族看護を基盤とした在宅看護論」</p> <p>VTR: 「在宅看護の基礎」「よくわかる介護保険制度」「訪問看護総論」</p>											
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。											
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない箇所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。											

授業科目		地域での暮らしを支える看護	担当者	西 美恵子								
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別								
	1	15	講義 15	2年次 前期								
	実務経験	有	看護師・保健師									
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族のニーズに基づいた生活行動への支援											
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 在宅で療養する人とその家族を対象とし、日常生活援助、医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1～2回</td> <td>在宅療養を支える訪問看護 訪問看護制度のあゆみ/訪問看護の特徴/訪問看護の対象者の特徴/ 訪問看護の利用者と訪問回数</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3～7回</td> <td>暮らしを支える看護技術 暮らしの場で看護をするための心構え/セルフケアを支える対話・ コミュニケーション/地域・在宅看護における家族を支える看護 在宅看護における安全性の確保（医療事故防止） 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策/地域・在宅看護実践に おけるリスクマネジメント 信頼関係の形成と療養者・家族の意思決定プロセスへの支援 地域における暮らしを支える看護実践 療養環境調整/活動・休息/食生活・嚥下/排泄/創傷管理/与薬</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	在宅療養を支える訪問看護 訪問看護制度のあゆみ/訪問看護の特徴/訪問看護の対象者の特徴/ 訪問看護の利用者と訪問回数	3～7回	暮らしを支える看護技術 暮らしの場で看護をするための心構え/セルフケアを支える対話・ コミュニケーション/地域・在宅看護における家族を支える看護 在宅看護における安全性の確保（医療事故防止） 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策/地域・在宅看護実践に おけるリスクマネジメント 信頼関係の形成と療養者・家族の意思決定プロセスへの支援 地域における暮らしを支える看護実践 療養環境調整/活動・休息/食生活・嚥下/排泄/創傷管理/与薬	8回	終講試験
<回>	<内容>											
1～2回	在宅療養を支える訪問看護 訪問看護制度のあゆみ/訪問看護の特徴/訪問看護の対象者の特徴/ 訪問看護の利用者と訪問回数											
3～7回	暮らしを支える看護技術 暮らしの場で看護をするための心構え/セルフケアを支える対話・ コミュニケーション/地域・在宅看護における家族を支える看護 在宅看護における安全性の確保（医療事故防止） 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策/地域・在宅看護実践に おけるリスクマネジメント 信頼関係の形成と療養者・家族の意思決定プロセスへの支援 地域における暮らしを支える看護実践 療養環境調整/活動・休息/食生活・嚥下/排泄/創傷管理/与薬											
8回	終講試験											
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院</p> <p>参考文献：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研</p>											
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。											
備考	<p>時間外学習</p> <p>予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。</p>											

授業科目		地域での暮らしを支える多職種連携	担当者	赤崎 里美												
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別												
	1	15	講義 15	1年次 後期												
	実務経験	有	看護師													
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅看護における多職種の役割 多職種との連携・協働を基盤としたケアマネジメント															
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 地域・在宅看護における多職種の役割を理解する。</p> <p>(2) 多職種連携・協働を基盤としたケアマネジメントを理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>地域・在宅における多職種の役割と連携・協働 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働</td> </tr> <tr> <td>3～4回</td> <td>地域・在宅看護マネジメント 1. 地域・在宅看護マネジメントとは 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント ①退院支援・退院調整 ②介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント ③地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>事例に基づき多職種連携、協働のあり方を考える</td> </tr> <tr> <td>6～7回</td> <td>事例課題</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	地域・在宅における多職種の役割と連携・協働 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働	3～4回	地域・在宅看護マネジメント 1. 地域・在宅看護マネジメントとは 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント ①退院支援・退院調整 ②介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント ③地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント	5回	事例に基づき多職種連携、協働のあり方を考える	6～7回	事例課題	8回	終講試験
<回>	<内容>															
1～2回	地域・在宅における多職種の役割と連携・協働 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働															
3～4回	地域・在宅看護マネジメント 1. 地域・在宅看護マネジメントとは 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント ①退院支援・退院調整 ②介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント ③地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント															
5回	事例に基づき多職種連携、協働のあり方を考える															
6～7回	事例課題															
8回	終講試験															
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2</p> <p>参考文献：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア「よくわかる在宅看護」 学研</p>															
評価方法	終講試験、演習、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。															
備考	<p>時間外学習</p> <p>予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。</p>															

授業科目		地域での暮らしを支える看護実践Ⅱ	担当者	西 美恵子								
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別								
	1	15	講義 15	2年次 前・後期								
	実務経験	有	看護師・保健師									
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族への看護の展開方法											
授業の目標および授業計画	<p><目 標> さまざまな事例から、療養者とその家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を理解する。 既存の看護の知識を応用し、対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>在宅看護の実際 在宅看護介入時期別の特徴 訪問看護における看護過程の特徴 訪問看護過程の実際 家庭訪問 初回訪問 訪問看護の記録</td> </tr> <tr> <td>3～7回</td> <td>対象に応じた地域・在宅看護の展開・社会資源・看護技術 1) 最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 2) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院する ALS 療養者 3) 老老介護であるパーキンソン病療養者：ADL の低下、再発予防 4) 日中独居の認知症療養者：認知症</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	在宅看護の実際 在宅看護介入時期別の特徴 訪問看護における看護過程の特徴 訪問看護過程の実際 家庭訪問 初回訪問 訪問看護の記録	3～7回	対象に応じた地域・在宅看護の展開・社会資源・看護技術 1) 最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 2) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院する ALS 療養者 3) 老老介護であるパーキンソン病療養者：ADL の低下、再発予防 4) 日中独居の認知症療養者：認知症	8回	終講試験
<回>	<内容>											
1～2回	在宅看護の実際 在宅看護介入時期別の特徴 訪問看護における看護過程の特徴 訪問看護過程の実際 家庭訪問 初回訪問 訪問看護の記録											
3～7回	対象に応じた地域・在宅看護の展開・社会資源・看護技術 1) 最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 2) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院する ALS 療養者 3) 老老介護であるパーキンソン病療養者：ADL の低下、再発予防 4) 日中独居の認知症療養者：認知症											
8回	終講試験											
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論 2</p> <p>参考文献：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研</p>											
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。											
備考	<p>時間外学習</p> <p>予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。</p>											

授業科目		地域での暮らしを支える看護Ⅱ	担当者	赤崎 里美												
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別												
	1	15	講義 15	2年次 前・後期												
	実務経験	無														
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域で療養生活を送る人と家族の看護を学ぶ。															
授業の目標および授業計画	<p><目標></p> <p>(1) 在宅療養者の病期、病態、障害の特徴に応じた看護が理解できる。</p> <p>(2) 在宅で療養する療養者と介護者および家族が、地域で療養生活を継続するための支援が理解ができる。</p> <p>(3) 地域で療養している人やその家族の現状と課題、健康上のニーズを理解できる。</p> <p>(4) 在宅看護に必要な法律や制度、社会資源、他職種との連携や協働を探究することができる。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>地域・在宅看護における看護過程の基本的な考え方 地域・在宅看護における看護過程の特徴 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント 地域・在宅看護過程における目標・計画・実施（介入）・評価</td> </tr> <tr> <td>2～4回</td> <td>事例を用いて在宅療養支援の看護展開</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>訪問看護ステーションに関する規定 訪問看護の利用までの手順 訪問看護の費用/訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用</td> </tr> <tr> <td>6～7回</td> <td>仮想の訪問看護ステーションを設立</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>仮想の訪問看護ステーションをプレゼンテーション</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	地域・在宅看護における看護過程の基本的な考え方 地域・在宅看護における看護過程の特徴 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント 地域・在宅看護過程における目標・計画・実施（介入）・評価	2～4回	事例を用いて在宅療養支援の看護展開	5回	訪問看護ステーションに関する規定 訪問看護の利用までの手順 訪問看護の費用/訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用	6～7回	仮想の訪問看護ステーションを設立	8回	仮想の訪問看護ステーションをプレゼンテーション
<回>	<内容>															
1回	地域・在宅看護における看護過程の基本的な考え方 地域・在宅看護における看護過程の特徴 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント 地域・在宅看護過程における目標・計画・実施（介入）・評価															
2～4回	事例を用いて在宅療養支援の看護展開															
5回	訪問看護ステーションに関する規定 訪問看護の利用までの手順 訪問看護の費用/訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用															
6～7回	仮想の訪問看護ステーションを設立															
8回	仮想の訪問看護ステーションをプレゼンテーション															
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論② 医学書院</p> <p>参考文献：ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術</p>															
評価方法	事前課題・課題への取り組み状況、演習発表にて総合的に判断する。															
備考	<p>時間外学習</p> <p>予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。</p>															

授業科目		地域での暮らしを支える 看護実践力を培う実習	担当者	赤崎 里美								
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別								
	2	60	実習 60	3年次 前・後期								
	実務経験	有	看護師									
その実務経験を生かして行う教育内容												
<p>地域・在宅で看護を必要としている個人、その家族に対する看護援助の実践 地域で生活している人々の健康の保持増進と質の高い生活への援助</p>												
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 在宅で看護を必要としている個人とその家族に対して、生活の現状をふまえた看護援助が実践できる能力を養う。また、地域で生活している人々が保健サービスを利用して、健康の保持増進とより質の高い生活を送ることができるよう援助することの必要性を理解する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人への訪問看護を通して、療養している個人と家族に対する看護の役割を理解する。 2. 地域で生活している人々の健康増進・疾病の予防について理解する。 3. 地域で生活している人々の健康上の問題・関連する諸問題の解決にかかわる多様な職種の役割・機能を理解し、調整的役割の重要性を学ぶ。 4. 継続看護の必要性を理解する。 5. 対象をとりまく環境を理解し、その人の価値観と考え方を尊重した接し方ができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人への訪問看護 2. 地域における健康保持増進・疾病予防の援助 3. 在宅で療養している人の生活を支える援助 <p>IV. 実習場所</p> <table border="0"> <tr> <td>生協訪問看護ステーションこくぶ</td> <td>訪問看護ステーション姫城</td> </tr> <tr> <td>フラワーホーム居宅介護支援事業所</td> <td>ケアプランセンターガーデン</td> </tr> <tr> <td>国分生協病院地域連携室</td> <td>霧島市立医師会医療センター</td> </tr> <tr> <td>ケアサポートセンター集</td> <td></td> </tr> </table> <p>V. 地域での暮らしを支える看護実践力を培う実習要項に沿って実習する</p>				生協訪問看護ステーションこくぶ	訪問看護ステーション姫城	フラワーホーム居宅介護支援事業所	ケアプランセンターガーデン	国分生協病院地域連携室	霧島市立医師会医療センター	ケアサポートセンター集	
	生協訪問看護ステーションこくぶ	訪問看護ステーション姫城										
フラワーホーム居宅介護支援事業所	ケアプランセンターガーデン											
国分生協病院地域連携室	霧島市立医師会医療センター											
ケアサポートセンター集												
履修要件	既習の専門基礎分野、専門分野の基礎看護学、地域・在宅看護論の単位を修得していること。											
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、規定の評価表に基づいて評価する。											
備考												

授業科目		成人期の理解	担当者	森山 ゆきみ																				
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																				
	1	30	講義 30	1年次 後期																				
	実務経験	有	看護師																					
	その実務経験を生かして行う教育内容 成人各期の健康の保持増進・疾病の予防と健康レベルの回復に応じた看護																							
授業の目標および授業計画	<p><目標></p> <p>成人の身体的機能の変化ならびに心理・社会的特性を理解する。 成人を取り巻く環境と発達段階に応じた健康上の課題と対策を理解する。 成人の健康レベルに応じて活用される理論・モデルを理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回～2回</td> <td>成人期の特徴(青年期・壮年期・中年期)</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>成人を取り巻く環境・成人の健康状況</td> </tr> <tr> <td>4回～5回</td> <td>生活習慣に関連する健康障害・生活と健康をまもり育むシステム</td> </tr> <tr> <td>6回～7回</td> <td>労働者と健康障害・労働者を守り育むシステム</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>ストレスと健康障害・ストレスへの対処</td> </tr> <tr> <td>9回～10回</td> <td>成人看護の目的と方法・身体機能の変化に応じた看護</td> </tr> <tr> <td>11回～12回</td> <td>成人への看護アプローチの基本 大人の学習 ・ 行動変容を促進するアプローチ・意思決定支援</td> </tr> <tr> <td>13回～14回</td> <td>急性期にある人への回復を支援する看護 フィンクモデルによる危機介入 慢性病と共に生きる人を支える看護 慢性病と慢性病を持つ人の特徴と理解 (病みの軌跡) セルフケアへの支援 生活の再構築への支援 (ヘルスビリーフモデル・自己効力感)</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト まとめ</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回～2回	成人期の特徴(青年期・壮年期・中年期)	3回	成人を取り巻く環境・成人の健康状況	4回～5回	生活習慣に関連する健康障害・生活と健康をまもり育むシステム	6回～7回	労働者と健康障害・労働者を守り育むシステム	8回	ストレスと健康障害・ストレスへの対処	9回～10回	成人看護の目的と方法・身体機能の変化に応じた看護	11回～12回	成人への看護アプローチの基本 大人の学習 ・ 行動変容を促進するアプローチ・意思決定支援	13回～14回	急性期にある人への回復を支援する看護 フィンクモデルによる危機介入 慢性病と共に生きる人を支える看護 慢性病と慢性病を持つ人の特徴と理解 (病みの軌跡) セルフケアへの支援 生活の再構築への支援 (ヘルスビリーフモデル・自己効力感)	15回	終講テスト まとめ
	<回>	<内容>																						
1回～2回	成人期の特徴(青年期・壮年期・中年期)																							
3回	成人を取り巻く環境・成人の健康状況																							
4回～5回	生活習慣に関連する健康障害・生活と健康をまもり育むシステム																							
6回～7回	労働者と健康障害・労働者を守り育むシステム																							
8回	ストレスと健康障害・ストレスへの対処																							
9回～10回	成人看護の目的と方法・身体機能の変化に応じた看護																							
11回～12回	成人への看護アプローチの基本 大人の学習 ・ 行動変容を促進するアプローチ・意思決定支援																							
13回～14回	急性期にある人への回復を支援する看護 フィンクモデルによる危機介入 慢性病と共に生きる人を支える看護 慢性病と慢性病を持つ人の特徴と理解 (病みの軌跡) セルフケアへの支援 生活の再構築への支援 (ヘルスビリーフモデル・自己効力感)																							
15回	終講テスト まとめ																							
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 成人看護学総論 系統看護学講座 医学書院 適宜資料を配布する。</p>																							
評価方法	<p>終講テスト80%、課題・講義への参加度など20%</p>																							
備考																								

授業科目		循環器・呼吸器の機能障害をもつ人の看護	担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	2年次 前期
	実務経験	有	看護師・保健師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 循環器・呼吸器の機能障害をもつ成人の看護			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 循環器・呼吸器の機能障害をもつ成人への看護実践について学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <p> <回> <内容></p> <p>Ⅰ「呼吸機能障害をもつ患者の看護」</p> <p> 1回～2回 呼吸器疾患をもつ患者の姿と看護師の役割 症状に対する看護；咳嗽、喀痰、血痰、喀血・呼吸困難</p> <p> 3回 検査を受ける患者の看護；気管支鏡検査</p> <p> 4回 治療を受ける患者の看護；人工呼吸器</p> <p> 5回 〃 胸腔ドレナージ</p> <p> 6回 〃 肺切除術（開胸・胸腔鏡下）</p> <p> 7回～8回 〃 化学療法、放射線療法</p> <p>Ⅱ「循環器に障害のある患者の看護」</p> <p> 9回～10回 循環器疾患をもつ患者の姿と看護師の役割 検査を受ける患者の看護；心臓カテーテル検査・血管造影検査 血行動態モニタリング（スワンガンツ）</p> <p> 11回 治療を受ける患者の看護；PCI、CABG、弁置換術、IABP</p> <p> 12回 〃 ；ペースメーカー、植え込み型除細動器</p> <p> 13回～14回 病期に応じた援助；心不全、虚血性心疾患、不整脈、 下肢動脈閉塞症、心臓リハビリテーション</p> <p> 15回 終講テスト　まとめ</p>			
	使用教材および参考文献	テキスト：呼吸器 循環器 症状別	成人看護学② 成人看護学③ 看護過程 適宜資料を配布する。	系統看護学講座 系統看護学講座 医学書院
評価方法	終講試験、課題、講義への参加度などで評価する。			
備考	専門基礎の呼吸・循環に関する構造と機能・疾病と治療について復習をして臨むこと			

授業科目		運動機能障害をもつ人の看護	担当者	宮原 正吾 山下 哲史																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	15	講義 11・演習 4	2年次 前・後期																
	実務経験	有	看護師																	
	その実務経験を生かして行う教育内容 運動機能障害患者の看護																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 運動機能障害を持つ患者への看護実践の方法を学ぶ</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1回</td> <td>運動機能障害の原因と障害の程度とアセスメント 検査・処置を受ける患者への看護</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2回</td> <td>治療を受ける患者への看護 ギプス固定 牽引法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3回</td> <td>病期や機能障害に応じた看護 関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断後 変形性膝関節症 骨折</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4回</td> <td>腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 脊髄損傷患者の看護</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5回</td> <td>大腿骨頸部骨折患者の看護</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6～7回</td> <td>演習；良肢位・基本肢位 関節可動域測定 徒手筋力測定（MMT） 床上訓練 松葉杖・一本杖の長さ 介達牽引（スピードトラック牽引）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	運動機能障害の原因と障害の程度とアセスメント 検査・処置を受ける患者への看護	2回	治療を受ける患者への看護 ギプス固定 牽引法	3回	病期や機能障害に応じた看護 関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断後 変形性膝関節症 骨折	4回	腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 脊髄損傷患者の看護	5回	大腿骨頸部骨折患者の看護	6～7回	演習；良肢位・基本肢位 関節可動域測定 徒手筋力測定（MMT） 床上訓練 松葉杖・一本杖の長さ 介達牽引（スピードトラック牽引）	8回	終講テスト
<回>	<内容>																			
1回	運動機能障害の原因と障害の程度とアセスメント 検査・処置を受ける患者への看護																			
2回	治療を受ける患者への看護 ギプス固定 牽引法																			
3回	病期や機能障害に応じた看護 関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断後 変形性膝関節症 骨折																			
4回	腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 脊髄損傷患者の看護																			
5回	大腿骨頸部骨折患者の看護																			
6～7回	演習；良肢位・基本肢位 関節可動域測定 徒手筋力測定（MMT） 床上訓練 松葉杖・一本杖の長さ 介達牽引（スピードトラック牽引）																			
8回	終講テスト																			
参考文献	テキスト： 運動器 成人看護学⑩ 系統看護学講座 医学書院																			
評価方法	出席状況・終講試験を中心に評価する。																			
備考																				

授業科目		腎・泌・生殖器の機能障害をもつ人の看護	担当者	森 隆徳												
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別												
	1	15	講義 15	2年次 前・後期												
	実務経験	有	看護師													
	その実務経験を生かして行う教育内容 腎・泌尿器・生殖機能障害の患者の看護															
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 腎・泌・生殖器の機能障害を持つ人への看護実践の方法を学ぶ</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>腎泌尿器疾患の検査と看護 患者の特徴と看護の役割 症状に対する看護 膀胱鏡検査 画像検査 生検を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>泌尿器科的手術を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>3回～4回</td> <td>泌尿器科的治療を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>5回～7回</td> <td>腎・泌尿器疾患をもつ人の看護</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	腎泌尿器疾患の検査と看護 患者の特徴と看護の役割 症状に対する看護 膀胱鏡検査 画像検査 生検を受ける患者の看護	2回	泌尿器科的手術を受ける患者の看護	3回～4回	泌尿器科的治療を受ける患者の看護	5回～7回	腎・泌尿器疾患をもつ人の看護	8回	終講テスト
<回>	<内容>															
1回	腎泌尿器疾患の検査と看護 患者の特徴と看護の役割 症状に対する看護 膀胱鏡検査 画像検査 生検を受ける患者の看護															
2回	泌尿器科的手術を受ける患者の看護															
3回～4回	泌尿器科的治療を受ける患者の看護															
5回～7回	腎・泌尿器疾患をもつ人の看護															
8回	終講テスト															
使用教材および参考文献	<p>テキスト：腎・泌尿器 成人看護学⑧ 系統看護学講座 医学書院</p> <p>VTR : 「安全な透析を行うための工夫」「シャントの日常管理」</p> <p>DVD : 「慢性腎臓病と腎性貧血」</p>															
評価方法	出席状況・課題レポートの成績を中心に評価する。															
備考																

授業科目		生体防御・感覚機能 障害をもつ人の看護	担当者	吉永 篤司 島津 めぐみ																				
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																				
	1	30	講義 30	2年次 前期																				
	実務経験	有	医師・看護師																					
その実務経験を生かして行う教育内容																								
生体防御機能の障害や感覚機能障害をもつ対象の看護																								
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 生体防御機能の障害や感覚機能障害をもつ対象の看護を学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>アレルギーの看護を学ぶにあたって 免疫のしくみとアレルギー</td> </tr> <tr> <td>2回～3回</td> <td>アレルギー検査と治療 アレルギー症状と疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>感染症の看護を学ぶにあたって 感染症とは</td> </tr> <tr> <td>5回～6回</td> <td>感染症の検査・診断・治療・疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>感染予防</td> </tr> <tr> <td>8回～9回</td> <td>膠原病の症状とその病態 膠原病疾患患者の治療と看護</td> </tr> <tr> <td>10回～11回</td> <td>免疫機能低下の看護 1. 白血病の復習 2. 骨髄穿刺時の看護 3. 骨髄移植、幹細胞移植術の看護 4. 移植時の倫理的配慮</td> </tr> <tr> <td>12回～14回</td> <td>感覚機能障害を持つ患者の看護 1. 眼疾患患者の観察とアセスメント 1) 主な看護 (1) 視機能に関連した症状の看護 (2) 治療（点眼法、光凝固） (3) 網膜剥離の看護 (4) 角膜移植の看護</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	アレルギーの看護を学ぶにあたって 免疫のしくみとアレルギー	2回～3回	アレルギー検査と治療 アレルギー症状と疾患の理解	4回	感染症の看護を学ぶにあたって 感染症とは	5回～6回	感染症の検査・診断・治療・疾患の理解	7回	感染予防	8回～9回	膠原病の症状とその病態 膠原病疾患患者の治療と看護	10回～11回	免疫機能低下の看護 1. 白血病の復習 2. 骨髄穿刺時の看護 3. 骨髄移植、幹細胞移植術の看護 4. 移植時の倫理的配慮	12回～14回	感覚機能障害を持つ患者の看護 1. 眼疾患患者の観察とアセスメント 1) 主な看護 (1) 視機能に関連した症状の看護 (2) 治療（点眼法、光凝固） (3) 網膜剥離の看護 (4) 角膜移植の看護	15回	終講テスト
	<回>	<内容>																						
1回	アレルギーの看護を学ぶにあたって 免疫のしくみとアレルギー																							
2回～3回	アレルギー検査と治療 アレルギー症状と疾患の理解																							
4回	感染症の看護を学ぶにあたって 感染症とは																							
5回～6回	感染症の検査・診断・治療・疾患の理解																							
7回	感染予防																							
8回～9回	膠原病の症状とその病態 膠原病疾患患者の治療と看護																							
10回～11回	免疫機能低下の看護 1. 白血病の復習 2. 骨髄穿刺時の看護 3. 骨髄移植、幹細胞移植術の看護 4. 移植時の倫理的配慮																							
12回～14回	感覚機能障害を持つ患者の看護 1. 眼疾患患者の観察とアセスメント 1) 主な看護 (1) 視機能に関連した症状の看護 (2) 治療（点眼法、光凝固） (3) 網膜剥離の看護 (4) 角膜移植の看護																							
15回	終講テスト																							
参考文献	<p>テキスト： 血液・造血器疾患 成人看護学④ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪ 眼科疾患患者の看護 成人看護学⑬ 系統看護学講座 医学書院</p>																							
評価方法	講義への取り組み及び終講試験により評価する。																							
備考																								

授業科目		成人の健康レベルに応じた看護	担当者	二川 妙子 毎床 義博 小林 聖子 池田 歩美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 成人の健康レベルに応じた看護（急性期 回復期 慢性期 終末期）				
授業の目標および授業計画	<p><目標> 成人の健康レベルに応じた看護（急性期 回復期 慢性期 終末期）について学ぶ</p> <p><授業計画></p> <p><回数> <内容></p> <p>1回～6回 クリティカルケアとは 看護の対象（患者・家族）の理解 急性期の看護（集中治療） 救急看護（救急外来） 回復期とは 回復期の看護の対象（患者・家族）の理解、看護の展開 慢性期とは 慢性期の看護の対象（患者・家族）の理解、看護の展開 リハビリテーション看護 看護の対象（患者・家族）の理解、看護の展開 経過別リハビリテーションの目的と看護のポイント</p> <p>7回～10回 終末期：人生の最期を迎える人と家族に寄り添う看護 終末期にある患者・家族の理解 医療の目的と場の特性、多職種連携と看護の役割 終末期に生じる身体的特徴・症状に対する緩和ケア 倦怠感 がん性疼痛 終末期における倫理的問題 臨死期の看護 看護師自身のケア（医療従事者のグリーフケア）</p> <p>11～14回 周術期看護 周術期にある患者・家族の特徴、手術侵襲と生体反応 手術前期の看護 〔術前検査、情報収集、アセスメント、合併症のリスクと予防的ケア、術前準備、オリエンテーション〕 手術期の看護〔麻酔の種類と特徴、生体侵襲、術中のリスク、手術室看護師の役割〕 手術後期の看護 〔機能低下からの早期回復と術後合併症対策、苦痛の緩和、退院指導〕</p> <p>15回 終講テスト</p>			
	参考文献	<p>テキスト：クリティカルケア看護学 別巻 リハビリテーション看護 別巻 臨床外科看護各論 別巻 救急看護学 別巻 がん看護学 別巻 緩和ケア 別巻 系統看護学講座 医学書院</p>		
評価方法	講義への取り組み及び終講試験により評価する。			
備考				

授業科目		老年期の理解	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 26・演習 4	1年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期の身体的・精神的・社会的変化 老年看護の機能と役割 老年者の保健・医療・福祉			
授業の目標および授業計画	<目 標> (1) 老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象が理解できる (2) 老年者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割が理解できる。 (3) 老年者の保健・医療・福祉の場における課題が理解できる。 <授業計画> <回> <内容> 1回 老年期とは 加齢と老化 高齢社会（高齢者の生活・暮らし） 2～3回 高齢者模擬体験 4回 高齢者模擬体験から得たもの 5～6回 社会保障（医療保険・介護保険） 施設サービス・居宅サービス 7～8回 高齢社会における権利擁護 9回 老年看護とは 10～14回 高齢者の生理的特徴・アセスメント ①外皮系 ②感覚器系 ③循環器系・呼吸器系 ④消化器系 ⑤腎・泌尿器系、性・生殖系 ⑥内分泌・代謝系 ⑦運動器系 ⑧認知機能 15回 終講テスト			
	使用教材および参考文献	テキスト：老年看護学 系統看護学講座 医学書院 老年看護・病態・疾患論 系統看護学講座 医学書院 国民衛生の動向		
評価方法	終講試験（80％）およびレポート（20％）で評価する。			
備考				

授業科目		老年看護の基本技術	担当者	牧元 智美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義 15	1年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年看護の基本的看護技術 高齢者の日常生活行動の援助方法			
授業の目標および授業計画	<目 標> 老年看護の基本的技術及び高齢者の日常生活行動に必要な援助の方法が理解できる。			
	<授業計画>			
	<回>	<内容>		
	1回	高齢者とのコミュニケーション技術について 加齢に伴うコミュニケーション障害（難聴、白内障、失語症等）		
	2回	日常生活を支える基本的活動について （基本動作、日常生活動作、転倒の要因と予防、 転倒時のケアと再発予防）		
	3回	高齢者と生活リズムについて 概日リズム、レム睡眠とノンレム睡眠、睡眠障害とその対応 高齢者に対する睡眠薬投与とそのケア		
	4回	高齢者に食事と食生活について 高齢者に特徴的な変調、食生活アセスメントと支援、胃瘻について		
	5回	演習 口腔ケア（STによる講話・演習）		
	6回	高齢者の排泄ケアについて 尿失禁・便失禁について、骨盤底筋訓練、膀胱訓練、おむつ外し おむつ使用時の援助について		
	7回	高齢者に生じやすい皮膚障害と清潔ケア 褥創予防とその評価とケア		
8回	終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：老年看護学 老年看護・病態・疾患論			
	系統看護学講座	医学書院		
	系統看護学講座	医学書院		
評価方法	終講試験（80％）およびレポート（20％）で評価する。			
備考				

授業科目		高齢者の健康レベルに応じた援助方法	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 22・演習 8	2年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害を持つ老年者の理解 健康レベルに応じた援助方法			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 健康障害を持つ老年者を理解し、健康レベルに応じた援助方法を理解する。</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>1～5回 高齢者によくみられる身体症状 ①発熱、熱中症、脱水、 ②嘔吐 ③浮腫、せん妄、感染症 ①②シュミレーションを実施</p> <p>6～7回 認知症を理解するために</p> <p>8～9回 高齢者の主な疾患と看護 ①認知症：認知機能の障害に対する看護</p> <p>10～11回 高齢者の主な疾患と看護 ②脳血管障害：脳血管障害に対する看護</p> <p>12～13回 高齢者の主な疾患と看護 ③パーキンソン病・パーキンソン症候群：パーキンソン病に対する看護</p> <p>14回 検査・治療を受ける高齢者への看護 薬物療法をうける高齢者への看護</p> <p>15回 エンドオブライフケア 講義</p> <p>16回 終講テスト</p>			
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：老年看護学 系統看護学講座 医学書院 老年看護・病態・疾患論 系統看護学講座 医学書院 症状別 看護過程 医学書院 疾患別 看護過程 医学書院</p>		
	評価方法	終講試験（70％）、シュミレーション（20％）レポート（10％）で評価を行います。		
	備考			

授業科目		地域で生活する高齢者を理解する実習	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習 90	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期にある人の生活の場と健康レベル 老年期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴 介護保険施設での高齢者への援助			
授業の目標および授業計画	I. 目的 1. 地域で自立した生活を営んでいる老年期にある人々の生活の場と健康レベルを理解できる。 2. 地域で生活しながら福祉サービスを利用している老年期にある人々の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴が理解できる。 3. 介護保険施設で生活する高齢者の発達段階と老化の特徴および健康障害を理解し、人格を尊重しながら入所者とその家族に応じた援助ができる。 II. 目標 1. 老年期にある対象の生きた時代、社会参加状況から生活観を理解する。 2. 対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴および発達課題が理解できる。 3. 高齢者の特徴をふまえて、コミュニケーションを図ることができる。 4. 利用者同士の交流や生きがいについて理解できる。 5. アクティビティケアの実際を知る。 6. 高齢者の生活を支える職種とその役割が理解できる。 III. 実習内容 1. 高齢者の特徴をふまえて、コミュニケーションを図る。 2. アクティビティケアの実施。 3. 健康障害の程度に応じた日常生活援助を指導者と実施。 IV. 実習場所 地域 デイサービス（介護型・リハビリ型） グループホーム、介護老人保健施設、介護老人福祉施設			
履修規定	老年看護学の単位を取得もしくは取得見込みであること			
進め方の授業	地域で生活する高齢者を知る実習要項に基づいて行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		看護の実践力を培う 実習	担当者	森山 ゆきみ 穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	6	270	実習 270	2年次後期～3年次後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 対象の発達段階の特徴、健康レベル・経過別に適応した看護実践			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 対象の発達段階の特徴を理解しながら、あらゆる健康レベルに対する問題・課題を明らかにした上で倫理的判断や科学的根拠に基づいた看護を保健医療福祉チームの一員として実践する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康レベルが身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響について理解する。 2. 対象の発達段階・健康レベル・経過別の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。 3. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助ができる。 4. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割機能を理解し、多職種と協働・連携を図ることができる。 5. 対象との関わりを通して共感的態度を身につけ、自立・自律を尊重した行動がとれる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康障害、健康レベル・経過別に応じた看護過程の展開を学ぶ。 2. 対象の個性性に応じた看護技術の展開を学ぶ。 3. 医療チームと連携し、患者を中心とした看護を展開する。 <p>IV. 実習場所</p> <p>独立行政法人 国立病院機構南九州病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合国分生協病院</p>			
履修規定	<p>2年次の実習 既習の専門基礎分野・専門の単位を取得していることもしくは取得見込みであること</p> <p>3年次の実習 既習の専門基礎分野・専門の単位を取得していること。"</p>			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに規定の評価表に基づいて評価する。			
授業の進め方	看護の実践力を培う実習要項に基づき展開する。			
備考				

授業科目		子どもとその家族の理解	担当者	吉川 美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 24・演習 6	1 年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 小児看護の対象、目的と役割 子どもに関連する動向と医療・保健・福祉 子どもの成長と発達			
授業の目標および授業計画	<目標> 小児各期の成長・発達の特徴や子どもと家族を取り巻く環境、社会の変化を理解し、小児看護の役割や課題について学ぶ。			
	<授業計画>			
	<回>	<内容>		
	1 回	小児看護の対象の理解		(講義)
	2 回	子どもの人権と看護		(講義・ワーク)
	3 回	小児看護の今、目標と役割		(講義)
	4 回	子どもをめぐる諸統計		(講義・ワーク)
	5 回	子どもと家族を取り巻く社会		(協同学習)
	6 回	子どもと家族を取り巻く社会		(講義)
	7 回	成長発達 1	成長発達の原則	形態的・機能的 (講義)
	8 回	成長発達 2	情緒	(講義)
	9 回	成長発達 3	あそび	(講義)
	10 回	成長発達 4	家族・環境	(講義)
	11 回	成長発達 5	栄養・評価	(講義)
	12 回	新生児期・乳児期		(講義・ワーク)
	13 回	幼児期		(講義・ワーク)
14 回	学童期・思春期		(講義・ワーク)	
15 回	終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト：小児看護学概論 小児看護学① 系統看護学講座 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 * その他 適宜資料を配布する			
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習内容、終講試験から総合的に評価する。			
備考				

授業科目		子どもの疾病と治療	担当者	江口 太助 吉川 英樹 連 利博																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	2年次 前期																		
	実務経験	有	医師																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 小児によくみられる疾患や症状																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 小児によくみられる疾患や症状を理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>成長と発育 予防接種 染色体異常 新生児疾患</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>代謝・内分泌疾患</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>アレルギー疾患 膠原病</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>ウイルス感染症</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>細菌感染症</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>呼吸器疾患 循環器疾患</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>腎・泌尿器疾患 神経疾患 皮膚疾患</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	成長と発育 予防接種 染色体異常 新生児疾患	2回	代謝・内分泌疾患	3回	アレルギー疾患 膠原病	4回	ウイルス感染症	5回	細菌感染症	6回	呼吸器疾患 循環器疾患	7回	腎・泌尿器疾患 神経疾患 皮膚疾患	8回	終講テスト
<回>	<内容>																					
1回	成長と発育 予防接種 染色体異常 新生児疾患																					
2回	代謝・内分泌疾患																					
3回	アレルギー疾患 膠原病																					
4回	ウイルス感染症																					
5回	細菌感染症																					
6回	呼吸器疾患 循環器疾患																					
7回	腎・泌尿器疾患 神経疾患 皮膚疾患																					
8回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	<p>テキスト：小児臨床看護各論 小児看護② 系統看護学講座 医学書院 適宜資料を配布する。</p>																					
評価方法	<p>終講テストにて評価する。</p>																					
備考																						

授業科目		疾病や障害をもつ看護 子どもの看護	担当者	吉川 美代子																						
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																						
	1	30	講義 12・演習 18	2年次 後期																						
	実務経験	有	看護師																							
	その実務経験を生かして行う教育内容 子どもとその家族の事例を通して看護実践ができる基礎の育成																									
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 様々な状況にある子どもと家族の事例学習を通して問題解決思考を習得することができる</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>特別支援学校の見学、まとめ</td> </tr> <tr> <td>3～4回</td> <td>川崎病の子どもの看護</td> </tr> <tr> <td>5～6回</td> <td>周手術期にある子どもの看護 痛みのある子どもの看護</td> </tr> <tr> <td>7～9回</td> <td>Ⅰ型糖尿病の子どもの看護 思春期の子どもの事例検討 看護過程 アセスメント</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>気管支喘息の子どもの看護 事例検討</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>ネフローゼ症候群の子どもの看護 事例検討</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>感染症の子どもの看護 看護過程演習</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>子どもの疾患看護計画立案</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>子どもの疾患看護演習 4 看護計画立案、プレパレーション計画</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1～2回	特別支援学校の見学、まとめ	3～4回	川崎病の子どもの看護	5～6回	周手術期にある子どもの看護 痛みのある子どもの看護	7～9回	Ⅰ型糖尿病の子どもの看護 思春期の子どもの事例検討 看護過程 アセスメント	10回	気管支喘息の子どもの看護 事例検討	11回	ネフローゼ症候群の子どもの看護 事例検討	12回	感染症の子どもの看護 看護過程演習	13回	子どもの疾患看護計画立案	14回	子どもの疾患看護演習 4 看護計画立案、プレパレーション計画	15回	終講テスト
<回>	<内容>																									
1～2回	特別支援学校の見学、まとめ																									
3～4回	川崎病の子どもの看護																									
5～6回	周手術期にある子どもの看護 痛みのある子どもの看護																									
7～9回	Ⅰ型糖尿病の子どもの看護 思春期の子どもの事例検討 看護過程 アセスメント																									
10回	気管支喘息の子どもの看護 事例検討																									
11回	ネフローゼ症候群の子どもの看護 事例検討																									
12回	感染症の子どもの看護 看護過程演習																									
13回	子どもの疾患看護計画立案																									
14回	子どもの疾患看護演習 4 看護計画立案、プレパレーション計画																									
15回	終講テスト																									
使用教材および参考文献	<p>テキスト：小児看護学概論 小児看護学① 系統看護学講座 医学書院 小児臨床看護各論 小児看護学② 系統看護学講座 医学書院</p> <p>その他：適宜資料配布</p>																									
評価方法	終講試験、演習、出席状況・態度、提出等により評価																									
備考																										

授業科目		健康な子どもを理解する実習	担当者	吉川 美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	実習 30	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解した援助の実際			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的</p> <p>II. 目標 小児看護の基礎としての健康な子どもの成長・発達の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの活動場面から成長発達の特徴について理解することができる。 2. 子どもとの望ましい関わり方とコミュニケーションの方法を理解することができる。 3. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助の方法を理解することができる。 4. 子どもの安全と健康を守るための環境について理解することができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認定こども園等の実習：24 時間 乳幼児の成長発達の理解と保育 2. 放課後児童クラブの実習：6 時間 学童期の子どもの成長発達の理解と支援 <p>IV. 実習場所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 霧島市内の認定こども園 2. 霧島市内の放課後児童クラブ 			
履修規定	小児看護学の単位を取得もしくは取得見込みであること			
授業の進め方	健康な子どもを理解する実習要項に基づき展開する。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		疾病や障害を持つ 子どもへの看護実践を 培う実習	担当者	吉川 美代子
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	60	講義 60	3年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害を持つ小児とその家族の理解と、発達段階・個別性を踏まえた援助方法			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 重症心身障害児とその家族を統合的に理解し、必要な看護を学ぶことができる。</p> <p>II. 目標 重症心身障害児とその家族を統合的に理解し、必要な看護を学ぶ。 1. 重症心身障害児及びその家族について理解することができる。 2. 重症心身障害児への療育・看護の方法について学び、実践することができる。 3. 重症心身障害児施設での看護師の役割を理解することができる。</p> <p>III. 実習内容 対象の健康障害、健康レベルに応じた看護 対象の発達段階と個別性をふまえた看護 小児に特有な看護技術 保健医療福祉チームの役割と連携、社会資源の活用</p> <p>III. 実習場所 1. 独立行政法人国立病院機構 南九州病院 2. 社会福祉法人たちばな会 医療福祉センターオレンジ学園</p>			
履修規定	小児看護学の単位を取得もしくは取得見込みであること。			
授業の進め方	疾病や障害を持つ子どもへの看護実践を培う実習要項に基づき展開する。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		母性の理解	担当者	白石 睦																		
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	15	講義 15	1年次 後期																		
	実務経験	有	看護師																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 母性看護の対象の身体・心理・社会的側面 母性に関する動向や保健制度 母性看護の特徴																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> リプロダクティブヘルスの概念を理解し、その上で女性の一生を通じた健康の保持・増進と、次世代の子どもを健やかに育成するための母性機能の健全な発達を促すために、母性看護が果たす役割と課題について学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>性・母性の概念</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>母性看護の歴史、母子保健の動向</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>母子保健にかかわる法律と施策</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>性周期と妊娠の成立</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>女性のライフステージ各期における特徴と健康問題</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>人工妊娠中絶と生殖補助医療、家族計画について</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>ドメスティックバイオレンスと児童虐待、メンタルヘルス問題への支援</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	性・母性の概念	2回	母性看護の歴史、母子保健の動向	3回	母子保健にかかわる法律と施策	4回	性周期と妊娠の成立	5回	女性のライフステージ各期における特徴と健康問題	6回	人工妊娠中絶と生殖補助医療、家族計画について	7回	ドメスティックバイオレンスと児童虐待、メンタルヘルス問題への支援	8回	終講試験
<回>	<内容>																					
1回	性・母性の概念																					
2回	母性看護の歴史、母子保健の動向																					
3回	母子保健にかかわる法律と施策																					
4回	性周期と妊娠の成立																					
5回	女性のライフステージ各期における特徴と健康問題																					
6回	人工妊娠中絶と生殖補助医療、家族計画について																					
7回	ドメスティックバイオレンスと児童虐待、メンタルヘルス問題への支援																					
8回	終講試験																					
使用教材および参考文献	テキスト：母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会																					
評価方法	レポート、終講試験により評価する。																					
備考																						

授業科目		妊婦の看護	担当者	本田 和子	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義 26・演習 4	2年次 前期	
	実務経験	有	看護師・助産師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性 妊婦とその家族に必要な看護（保健指導） ハイリスク妊娠とその看護				
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性を理解する (2) 妊婦とその家族に必要な看護（保健指導）を学ぶ (3) ハイリスク妊娠とその看護を学ぶ</p> <p><授業計画></p> <p><回> <内容></p> <p>1回 A 妊娠期の身体的特徴 ①妊娠の整理②胎児の発育とその生理 2回 ③母体の生理的变化</p> <p>3回 B 妊娠期の心理・社会的特性</p> <p>4回 C 妊婦と胎児のアセスメント ①妊娠とその診断・検査 5回 ②胎児の発育と健康状態の診断 6回 ③妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 7回 不快症状・日常生活</p> <p>8回 D 妊婦と家族の看護 ①母子保健サービス 9回 ②健康相談・教育の実際 10回 ③親になるための準備</p> <p>11回 A ハイリスク妊娠 ①生活習慣②既往歴③合併症 12回 B 感染症 C 妊娠疾患 D 多胎妊娠 13回 E 妊娠持続期間の異常 F 異所性妊娠 14回 G ハイリスク妊婦の看護 15回 終講テスト</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 医学書院 母性看護学各論 母性看護学② 系統看護学講座 医学書院</p> <p>参考書 ナーシング・グラフィカ；母性看護学〈1〉，母性看護実践の基本，メディカ出版 ナーシング・グラフィカ；母性看護学〈2〉，母性看護技術，メディカ出版 母性看護学第2版，〈1 妊娠・分娩〉〈2 産褥・新生児〉，医歯薬出版 DVD視聴</p>			
	評価方法	出席状況・課題・小テスト・終講試験により評価する。			
	備考				

授業科目		産婦の看護	担当者	本田 和子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 30	2年次 前期
	実務経験	有	看護師・助産師	
その実務経験を生かして行う教育内容 分娩・産褥経過に伴う母性の変化とその特性 産婦・褥婦およびその家族に必要な看護				
授業の目標および授業計画	<目 標> (1) 分娩経過とそれに伴う母性の変化と特性を理解し、必要な看護援助を学ぶ (2) 産婦とその家族に必要な看護援助を学ぶ (3) 出生直後の新生児のアセスメントと看護援助を学ぶ (4) 分娩期の異常と看護を学ぶ <授業計画> <回> <内容> 1回 A 分娩の要素 ①分娩の3要素 2回 ②分娩の機序 3回 B 分娩の経過 ①進行 ②産婦の身体的変化 ③産痛 4回 ④分娩が胎児に及ぼす影響 ⑤産婦の心理・社会的変化 5回 C 産婦・胎児・家族のアセスメント ①産婦と胎児の健康状態 6回 ②産婦と家族の心理・社会面 7回 D 産婦と家族の看護 ①産婦のニード ②安全・安楽な分娩 8回 ③肯定的な出産体験 ④基本的ニード 9回 E 分娩期の看護の実際 ①分娩1期～4期 ②無痛分娩 10回 分娩の異常と看護 A 産道の異常 B 娩出力の異常 11回 C 胎児の異常 D 付属物の異常 E 胎児機能不全 F 分娩時の損傷 12回 G 分娩第3期及び分娩直後の異常 H 分娩時異常出血 13回 I 産科処置と産科手術 14回 J 異常のある産婦の看護 K 異常分娩時の産婦の看護 L 分娩時異常出血のある産婦の看護 15回 終講テスト			
	使用教材および参考文献	テキスト：母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 医学書院 母性看護学各論 母性看護学② 系統看護学講座 医学書院 参考書 ナーシング・グラフィカ；母性看護学〈1〉，母性看護実践の基本，メディカ出版 ナーシング・グラフィカ；母性看護学〈2〉，母性看護技術，メディカ出版 母性看護学第2版，〈1妊娠・分娩〉〈2産褥・新生児〉，医歯薬出版 DVD視聴		
評価方法	出席状況・課題・小テスト・終講試験により評価する。			
備考				

授業科目		女性を支える看護実践力を培う実習	担当者	白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習 90	3年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 妊娠・分娩・産褥各期と新生児の理解 母性看護に必要な基礎的知識・技術・態度			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、母性及び新生児に必要な看護と保健指導を行いうる基礎能力を養う</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的变化を観察し、その経過をとらえることができる 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の心理・社会的側面を観察し、特徴を理解する 3. 対象者の健康水準を理解し、看護の必要性や課題を理解する 4. 対象に適した援助技術やその方法を学ぶ 5. 母子に関する社会的資源を理解し、その活用方法を学ぶ 6. 自らの母性や親性に気付くことができる 7. 生命の尊厳を認識できる <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子の受持ち実習による看護過程展開 2. 外来実習による妊婦の看護 3. 機能別実習による産婦の看護および新生児の看護 4. その他 <p>IV. 実習場所</p> <p>みつお産婦人科 前田産婦人科クリニック</p>			
履修要件	母性看護学の単位を取得もしくは取得見込みであること。			
授業の進め方	女性を支える看護実践力を培う実習要項に基づき展開する。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、事前課題レポート、規定の評価表にもとづく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		精神の健康の保持・増進	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義 22・演習 8	1年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神看護の目的、対象、機能と役割 精神の健康に影響を与える要因 精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> (1) 精神看護の目的、対象、機能と役割について理解する。 (2) 精神の健康に影響を与える要因を理解し、精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動について学ぶ。</p> <p><授業計画> <回> <内容> 1回 精神看護学の位置づけ・目的・対象 精神の健康・不健康 2回 演習：生活の場と精神保健① 3回 演習：生活の場と精神保健② 4回 演習：生活の場と精神保健③ 5回 演習：生活の場と精神保健④ 6回 精神の機能（フロイト） 意識・前意識・無意識、自我の機能、自我防衛機制、集団力動 7回 ストレス（セリエ）とストレスコーピング（ラザルス） 8回 精神の発達と危機①（フロイト、エリクソン） 9回 精神の発達と危機② 10～11回 危機の概念・危機理論（カプラン・アギュレラとメゼック） DVD『ラビットホール』 12回 危機介入 13回 家族システム・家族支援 14回 精神科以外での精神看護 看護カウンセリング・リエゾン精神看護 15回 終講テスト</p>			
	使用教材および参考文献	テキスト：精神看護の基礎 精神看護学① 系統看護学講座（医学書院） 精神看護の展開 精神看護学② 系統看護学講座（医学書院） 参考文献：国民衛生の動向（厚生労働統計協会） <資料・その他> 切抜き速報 健康りてらしい（ニホン・ミック） DVD『ラビットホール』		
評価方法	終講試験（70%）、演習（20%）、課題レポート（10%）を総合して評価する。			
備考				

授業科目		精神の疾患と治療	担当者	相良 威一郎
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義 15	2年次 前期
	実務経験	有	医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神の機能と症状・状態像 精神疾患における診断のプロセス・治療			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> (1) 精神の機能と症状・状態像について理解する。 (2) 主な精神疾患の特徴と診断プロセス、治療について理解する。</p> <p><授業計画> <回> <内容> 1回 精神科総論 2回 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状・検査・治療 3回 気分（感情）障害の症状・検査・治療 4回 器質性精神障害の症状・検査・治療 5回 てんかんの症状・検査・治療 6回 物質関連障害（アルコール・薬物依存症）の症状・検査・治療 神経症性障害の症状・検査・治療 7回 医療観察法・精神保健福祉法 8回 終講テスト</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：精神の基礎 精神看護学② 系統看護学講座（医学書院）			
評価方法	受講状況および終講試験の結果で総合的に評価する。			
備考				

授業科目		社会の中の精神障害	担当者	元 桂恵																						
区 分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																						
	1	30	講義 24・演習 6	2年次 前期																						
	実務経験	有	看護師																							
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度 日本の精神保健医療福祉の現状と課題 精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援する治療的環境と看護 地域で生活する精神障害者を支える福祉サービス																									
授業の目標および授業計画	<p><目 標></p> <p>(1) 歴史の変遷から、精神障害とその治療に関わる社会の歴史と文化とのつながりを知り、その多様性と普遍性を理解する。</p> <p>(2) 日本の精神保健医療福祉の現状と課題を理解する。</p> <p>(3) 精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援するための治療的環境と看護について学ぶ。</p> <p>(4) 地域で生活する精神障害者への福祉サービスについて理解する。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>精神障害の理解・精神障害のとらえ方（疾患モデルと障害モデル）</td> </tr> <tr> <td>2～3回</td> <td>精神疾患が与える影響と精神障害者を取り巻く環境 DVD『ビューティフル・マインド』</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（欧米）</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（日本）</td> </tr> <tr> <td>6～10回</td> <td>演習：日本の精神保健医療福祉の現状と課題 精神保健医療福祉の改革ビジョン・偏見・差別・スティグマ</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>精神保健医療福祉に関する法制度 看護の倫理と人権擁護</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>患者の安全を守り、回復を促すための治療環境</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>地域移行支援・地域生活支援 カプランの予防の概念 生きる力と強さに着目した援助（ストレングスモデル）</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>精神障害者の社会資源の活用とケアマネジメント</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	精神障害の理解・精神障害のとらえ方（疾患モデルと障害モデル）	2～3回	精神疾患が与える影響と精神障害者を取り巻く環境 DVD『ビューティフル・マインド』	4回	社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（欧米）	5回	社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（日本）	6～10回	演習：日本の精神保健医療福祉の現状と課題 精神保健医療福祉の改革ビジョン・偏見・差別・スティグマ	11回	精神保健医療福祉に関する法制度 看護の倫理と人権擁護	12回	患者の安全を守り、回復を促すための治療環境	13回	地域移行支援・地域生活支援 カプランの予防の概念 生きる力と強さに着目した援助（ストレングスモデル）	14回	精神障害者の社会資源の活用とケアマネジメント	15回	終講テスト
<回>	<内容>																									
1回	精神障害の理解・精神障害のとらえ方（疾患モデルと障害モデル）																									
2～3回	精神疾患が与える影響と精神障害者を取り巻く環境 DVD『ビューティフル・マインド』																									
4回	社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（欧米）																									
5回	社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（日本）																									
6～10回	演習：日本の精神保健医療福祉の現状と課題 精神保健医療福祉の改革ビジョン・偏見・差別・スティグマ																									
11回	精神保健医療福祉に関する法制度 看護の倫理と人権擁護																									
12回	患者の安全を守り、回復を促すための治療環境																									
13回	地域移行支援・地域生活支援 カプランの予防の概念 生きる力と強さに着目した援助（ストレングスモデル）																									
14回	精神障害者の社会資源の活用とケアマネジメント																									
15回	終講テスト																									
使用教材および参考文献	<p>テキスト：精神看護の基礎 精神看護学① 系統看護学講座（医学書院） 精神看護の展開 精神看護学② 系統看護学講座（医学書院）</p> <p>参考文献：国民衛生の動向（厚生労働統計協会）</p>																									
評価方法	終講試験（70%、課題レポート・演習(30%）を総合して評価する。																									
備考																										

授業科目		精神に障害を持つ人への看護	担当者	元 桂恵																						
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																						
	1	30	講義 16・演習 14	2年次 後期																						
	実務経験	有	看護師																							
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神看護実践に必要な対人関係技術 精神に障害を持つ対象への看護実践の方法 精神に障害をもつ対象の看護過程																									
授業の目標および授業計画	<目 標> (1) 精神看護実践に必要な対人関係技術について学ぶ。 (2) 精神疾患・障害のある対象への基本的な看護実践の方法を理解する。 (3) 精神疾患・障害のある対象の状態をアセスメントし看護を展開する方法を学ぶ。 <授業計画> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>主な精神状態に対する看護</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>身体療法（薬物療法・電気けいれん療法）時の看護</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>精神療法・社会療法時の看護</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>主な精神疾患に対する看護 統合失調症、気分（感情）障害</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>主な精神疾患に対する看護 神経症、てんかん、器質性精神障害、人格障害、依存症など</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>演習：ケアの人間関係① 自己理解・他者理解のための体験学習</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>ケアの人間関係② 自己理解・他者理解、転移感情、プロセスレコード</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>ケアの人間関係③ 身体ケアの必要性、治療的コミュニケーション技法</td> </tr> <tr> <td>9～14回</td> <td>演習：精神疾患をもつ対象の事例を用いた思考過程演習</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	主な精神状態に対する看護	2回	身体療法（薬物療法・電気けいれん療法）時の看護	3回	精神療法・社会療法時の看護	4回	主な精神疾患に対する看護 統合失調症、気分（感情）障害	5回	主な精神疾患に対する看護 神経症、てんかん、器質性精神障害、人格障害、依存症など	6回	演習：ケアの人間関係① 自己理解・他者理解のための体験学習	7回	ケアの人間関係② 自己理解・他者理解、転移感情、プロセスレコード	8回	ケアの人間関係③ 身体ケアの必要性、治療的コミュニケーション技法	9～14回	演習：精神疾患をもつ対象の事例を用いた思考過程演習	15回	終講テスト
<回>	<内容>																									
1回	主な精神状態に対する看護																									
2回	身体療法（薬物療法・電気けいれん療法）時の看護																									
3回	精神療法・社会療法時の看護																									
4回	主な精神疾患に対する看護 統合失調症、気分（感情）障害																									
5回	主な精神疾患に対する看護 神経症、てんかん、器質性精神障害、人格障害、依存症など																									
6回	演習：ケアの人間関係① 自己理解・他者理解のための体験学習																									
7回	ケアの人間関係② 自己理解・他者理解、転移感情、プロセスレコード																									
8回	ケアの人間関係③ 身体ケアの必要性、治療的コミュニケーション技法																									
9～14回	演習：精神疾患をもつ対象の事例を用いた思考過程演習																									
15回	終講テスト																									
使用教材および参考文献	テキスト：精神看護の基礎 精神看護学① 系統看護学講座（医学書院） 精神看護の展開 精神看護学② 系統看護学講座（医学書院）																									
評価方法	終講試験その他（60%）、思考過程演習（40%）を総合して評価する。																									
備考																										

授業科目		精神疾患患者への看護 実践力を培う実習	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習 90	3年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神に障害を持つ対象を理解した看護実践			
授業の目標および授業計画	<p>I.目的 精神に障害をもつ対象の理解を深め、必要な看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に現れている症状を把握し、検査・治療に対する援助が理解できる。 2. 環境が対象に与えている影響について理解し、治療的環境の意味を考えることができる。 3. 患者との相互関係の中で自己を振り返り、関係を発展させることができる。 4. 精神の障害が対象に与えている影響を知り、レベルに応じた自立への援助が理解できる。 5. 対象のリハビリにおける課題を見出すことができる。 <p>III.実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の病因とその分類・主な症状の理解 2. 精神状態が日常生活に与えている影響と援助の理解 3. 検査・治療の目的、心身に与えている影響、検査・治療時の援助 4. 精神科病棟の構造・設備・特殊性、環境の治療的意味 5. 医療チームメンバーの役割、連携の重要性 6. 治療的コミュニケーション技術の重要性、自己の振り返り 7. 対象の社会復帰を阻害する因子、社会復帰支援の実際 <p>IV.実習場所 医療法人仁心会 松下病院</p>			
履修要件	既習の精神看護学の単位を取得していること、もしくは取得見込みであること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに規定の評価表に基づいて評価する。			
授業の進め方	精神疾患患者への看護実践力を培う実習要項に基づき展開する。			
備考				

授業科目		地域で暮らす精神障害者への看護実践力を培う実習	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	実習 30	3年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアの支援の実際 精神に障害を持つ人の地域生活を支える制度と支援する職種の役割と機能 精神障害者のリカバリー			
授業の目標および授業計画	I. 目的 精神に障害を持ち地域で生活している人への支援の実際について理解する。 II. 授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアについて、ストレングスに焦点を当てて情報を得ることができる。 2. 精神に障害を持ち地域で生活している人を支援する多様な職種の役割と機能を理解する。 3. 精神に障害を持つ人の地域生活を支える制度と支援の実際について理解する。 4. 精神障害者のリカバリーを支えるために何ができるかを述べることができる。 III. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科訪問看護実習：1日間 2. 精神科デイケア実習：2日間 3. 就労継続支援 B 型実習：1日間 IV. 実習場所 社会福祉法人たちばな会 就労支援事業所 オレンジの里 医療法人仁心会 松下病院			
履修要件	既習の精神看護学の単位を取得していることもしくは取得見込みであること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに規定の評価表に基づいて評価する。			
授業の進め方	地域で暮らす精神障害者への看護実践力を培う実習要項に基づき展開する。			
備考				

授業科目		医療安全	担当者	白石 睦																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	15	講義 15	2年次 前・後期																
	実務経験	有	医師																	
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護業務における医療事故の種類と事故発生要因 医療事故分析と事故発生のメカニズム 防止策と事故後の対応																			
授業の目標および授業計画	<p><目標> 医療や看護を取り巻く医療安全の現状を理解し、医療事故の要因からその分析方法までを学ぶ。また、臨床現場において起こりやすい事故とその取り組みを理解する。さらに事例を用いて多角的視点から事故の背景や要因を分析し、安全対策を考え、事故後の対応を学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>医療安全の歴史と医療安全への取り組み</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>医療事故発生のメカニズム</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>看護における医療安全対策</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>医療事故分析手法、事例検討（KYT）</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>看護師の労働安全衛生上の事故防止、事故後の対応</td> </tr> <tr> <td>6～7回</td> <td>医療事故防止のためのコミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	医療安全の歴史と医療安全への取り組み	2回	医療事故発生のメカニズム	3回	看護における医療安全対策	4回	医療事故分析手法、事例検討（KYT）	5回	看護師の労働安全衛生上の事故防止、事故後の対応	6～7回	医療事故防止のためのコミュニケーション技術	8回	終講テスト
	<回>	<内容>																		
1回	医療安全の歴史と医療安全への取り組み																			
2回	医療事故発生のメカニズム																			
3回	看護における医療安全対策																			
4回	医療事故分析手法、事例検討（KYT）																			
5回	看護師の労働安全衛生上の事故防止、事故後の対応																			
6～7回	医療事故防止のためのコミュニケーション技術																			
8回	終講テスト																			
使用教材および参考文献	テキスト：医療安全 看護の統合と実践② 系統看護学講座 医学書院																			
評価方法	終講試験（80％）レポート（10％）授業およびグループワークへの参加度（10％）にて総合的に評価する。																			
備考																				

授業科目		総合看護の実践	担当者	白石 睦																		
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																		
	1	30	講義 24・演習 6	2年次 後期																		
	実務経験	有	看護師																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 臨床での総合的な判断・対応の基礎																					
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 臨床に近い状況で総合的な判断・対応を体験することにより卒後の看護業務遂行のイメージができる。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>実務に即した看護実践実習の学びの共有</td> </tr> <tr> <td>2～4回</td> <td>複数患者を受け持つための情報収集・管理 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理</td> </tr> <tr> <td>5～6回</td> <td>多重課題への対処 多重課題の危険性 多重課題発生時の対処の原則</td> </tr> <tr> <td>7～9回</td> <td>看護実践と健康管理 看護職の生活の特徴 生活パターンの確立 ストレス対策</td> </tr> <tr> <td>10～11回</td> <td>夜勤の業務内容について 転倒時の対応</td> </tr> <tr> <td>12～13回</td> <td>看護師のチームワークとリーダーシップ、コミュニケーション 指示と報告の基本 看護チームでの情報伝達・共有 多職種とのチームワークとコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>計算問題</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>終講テスト</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	実務に即した看護実践実習の学びの共有	2～4回	複数患者を受け持つための情報収集・管理 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理	5～6回	多重課題への対処 多重課題の危険性 多重課題発生時の対処の原則	7～9回	看護実践と健康管理 看護職の生活の特徴 生活パターンの確立 ストレス対策	10～11回	夜勤の業務内容について 転倒時の対応	12～13回	看護師のチームワークとリーダーシップ、コミュニケーション 指示と報告の基本 看護チームでの情報伝達・共有 多職種とのチームワークとコミュニケーション	14回	計算問題	15回	終講テスト
<回>	<内容>																					
1回	実務に即した看護実践実習の学びの共有																					
2～4回	複数患者を受け持つための情報収集・管理 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理																					
5～6回	多重課題への対処 多重課題の危険性 多重課題発生時の対処の原則																					
7～9回	看護実践と健康管理 看護職の生活の特徴 生活パターンの確立 ストレス対策																					
10～11回	夜勤の業務内容について 転倒時の対応																					
12～13回	看護師のチームワークとリーダーシップ、コミュニケーション 指示と報告の基本 看護チームでの情報伝達・共有 多職種とのチームワークとコミュニケーション																					
14回	計算問題																					
15回	終講テスト																					
使用教材および参考文献	テキスト：医療安全 看護の統合と実践② 系統看護学講座 医学書院																					
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習、終講試験から総合的に判断する。																					
備考																						

授業科目		国際・災害看護	担当者	森 隆徳 連 利博 JICA 穂山 みどり																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	30	講義 20・演習 10	3年次 後期																
	実務経験	有	看護師・医師																	
	その実務経験を生かして行う教育内容 国内外の災害看護の基礎と活動 国際看護の現状と課題																			
授業の目標および授業計画	<p><目 標> 国内外の災害看護の基礎と活動について理解する。 国際看護の現状と課題について理解を深める。</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><回></td> <td style="text-align: center;"><内容></td> </tr> <tr> <td>I 「国際看護」</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1～3回</td> <td>国際看護学の定義 国際看護学の対象 国際看護に関する基礎知識 国際協力の基礎知識</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">4～5回</td> <td>国際・医療 NGO 経験、国際医療の問題点と対策 (看護の観点から)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">6～7回</td> <td>JICA 概要 体験談 医療分野の現状</td> </tr> <tr> <td>II 「災害看護」</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">8～14回</td> <td>災害医療と災害看護の基礎知識 災害の歴史と法による減災 災害サイクルに応じた災害看護 (急性期・慢性期・復興期・静穏期) 被災者に応じた災害看護 (子ども・妊産婦・高齢者・外国人・障害者・慢性疾患患者) 急性期・亜急性期の看護(災害支援ナース) 慢性期・静穏期の看護(生活支援・ボランティア・防災)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">15回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	I 「国際看護」		1～3回	国際看護学の定義 国際看護学の対象 国際看護に関する基礎知識 国際協力の基礎知識	4～5回	国際・医療 NGO 経験、国際医療の問題点と対策 (看護の観点から)	6～7回	JICA 概要 体験談 医療分野の現状	II 「災害看護」		8～14回	災害医療と災害看護の基礎知識 災害の歴史と法による減災 災害サイクルに応じた災害看護 (急性期・慢性期・復興期・静穏期) 被災者に応じた災害看護 (子ども・妊産婦・高齢者・外国人・障害者・慢性疾患患者) 急性期・亜急性期の看護(災害支援ナース) 慢性期・静穏期の看護(生活支援・ボランティア・防災)	15回	終講試験
	<回>	<内容>																		
I 「国際看護」																				
1～3回	国際看護学の定義 国際看護学の対象 国際看護に関する基礎知識 国際協力の基礎知識																			
4～5回	国際・医療 NGO 経験、国際医療の問題点と対策 (看護の観点から)																			
6～7回	JICA 概要 体験談 医療分野の現状																			
II 「災害看護」																				
8～14回	災害医療と災害看護の基礎知識 災害の歴史と法による減災 災害サイクルに応じた災害看護 (急性期・慢性期・復興期・静穏期) 被災者に応じた災害看護 (子ども・妊産婦・高齢者・外国人・障害者・慢性疾患患者) 急性期・亜急性期の看護(災害支援ナース) 慢性期・静穏期の看護(生活支援・ボランティア・防災)																			
15回	終講試験																			
参考文献	使用教材および テキスト：災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 系統看護学講座 医学書院																			
評価方法	終講試験(70%)、レポート(30%)により評価する。																			
備考																				

授業科目		災害・救急時の看護 実践力を培う演習	担当者	村下 清美 穂山 みどり														
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別														
	1	30	演習 30	3年次 前・後期														
	実務経験	有	看護師															
	その実務経験を生かして行う教育内容 救命救急を必要とする対象への看護の実際 臨床判断																	
授業の目標および授業計画	<p><目標> 救命救急を必要とする対象への看護の実際、臨床判断について学ぶ</p> <p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;"><回></td> <td><内容></td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>胃潰瘍から出血性ショックを呈した患者の事例提示 胃の解剖生理</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>胃潰瘍の病態</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>ショックについて</td> </tr> <tr> <td>4～5回</td> <td>必要とされる看護技術について</td> </tr> <tr> <td>6～11回</td> <td>〔演習〕 心電図、静脈血採血、点滴静脈内注射、点滴滴下調整、 輸液ポンプ・シリンジポンプ操作 胃管挿入、膀胱留置カテーテル挿入 吸引（口、鼻腔、気管内）、酸素吸入 SBAR、救急カート、バックバルブマスク、気管内挿管介助</td> </tr> <tr> <td>12～15回</td> <td>シミュレーション ショックの観察と対応</td> </tr> </table>				<回>	<内容>	1回	胃潰瘍から出血性ショックを呈した患者の事例提示 胃の解剖生理	2回	胃潰瘍の病態	3回	ショックについて	4～5回	必要とされる看護技術について	6～11回	〔演習〕 心電図、静脈血採血、点滴静脈内注射、点滴滴下調整、 輸液ポンプ・シリンジポンプ操作 胃管挿入、膀胱留置カテーテル挿入 吸引（口、鼻腔、気管内）、酸素吸入 SBAR、救急カート、バックバルブマスク、気管内挿管介助	12～15回	シミュレーション ショックの観察と対応
<回>	<内容>																	
1回	胃潰瘍から出血性ショックを呈した患者の事例提示 胃の解剖生理																	
2回	胃潰瘍の病態																	
3回	ショックについて																	
4～5回	必要とされる看護技術について																	
6～11回	〔演習〕 心電図、静脈血採血、点滴静脈内注射、点滴滴下調整、 輸液ポンプ・シリンジポンプ操作 胃管挿入、膀胱留置カテーテル挿入 吸引（口、鼻腔、気管内）、酸素吸入 SBAR、救急カート、バックバルブマスク、気管内挿管介助																	
12～15回	シミュレーション ショックの観察と対応																	
使用教材および参考文献	<p>テキスト：消化器 成人看護学⑤ 系統看護学講座 医学書院 救急看護学 別巻 系統看護学講座 医学書院 クリティカルケア看護学 系統看護学講座 医学書院 症状別 看護過程 医学書院 疾患別 看護過程 医学書院</p>																	
評価方法	出席状況、看護実践状況、レポートなどから評価する。																	
備考																		

授業科目		実務に即した看護実践 実習	担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習 90	3年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 病棟管理の実際 チーム医療 看護専門職の役割			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 病棟管理の実際を学び、チームの一員として看護を実践し、看護専門職としての役割を理解し自覚と責任を養う。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護問題を明確にし、計画の立案ができる。 2. 看護の優先順位を考え、必要な援助を実施し、評価・修正ができる。 3. 外来看護師の役割を理解し、外来看護の実際が理解できる。 4. 看護管理の実際が理解できる。 5. 看護専門職として、自己の課題とその対策について考えることができる。 6. 主体的に学習することができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数受け持ちの看護を実践する。 2. 業務の流れを把握しチームの一員として看護を実践する。 3. 病院組織における看護管理 (看護組織と運営 看護理念 看護方式 病院看護機能評価) 4. 病棟管理者の役割と業務 (病床管理 医療安全対策 職員の配置 職員の健康管理 他部門との連携・調整 職員・看護学生の指導) 5. コーディネーターの役割と業務 <p>III. 実習場所 霧島市立医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
	履修規定	既習の専門基礎分野、専門分野の基礎看護学・看護の統合と実践の単位を取得もしくは取得見込みであること。		
授業の進め方	実務に即した看護実践実習要項に基づき展開する。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

